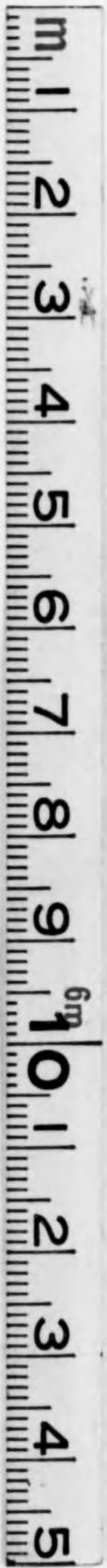


特 274

345

348

288



始



一、序 文

人生は故郷が大切である。過去現在は何論遠き未來に到る迄も吾人の運命を支配するものは實に故郷である。だから人は故郷を知らねばならない。故郷を知らずして發展成功せんと思ふ者は恰も基礎工事をなさずして大層高樓を建築せんとするに等しい。而して故郷を知るの要訣は故郷の人物を知るにある。故郷に於ける先輩及郷友を知委することが故郷を知る第一の捷徑である。多紀と氷上の兩郡は過去の歴史を見ても又現在に於ける政治産業及交際等の各方面から見ても互に離るべからざる密接の關係を有し將來に於ても益々その密度は加はる傾向を有してゐる。されば兩郡人は兩郡を一編めにして自分の故郷と思惟するのが當然であつて現にさうなりつつあるのである。茲に於て、兩郡出身の人物多數を網羅した人名録は故郷を知らんと欲する兩郡出身の人達には是非必要である。本『多紀氷上人名鑑』は斯かる要求に應ずべき目的を持つて編纂されたのであつて主として現在の兩郡出身人物一千五百有餘人の經歷及現狀及大先輩の經歷を紹介したのである。最初本書發行の計畫を發表したのは昭和四年の春で篠山新聞の紙面擴張の記念事業として、昭和五年末迄に完成の豫定であつた。ところが我國内は愚か世界の各方面にまで散在して活動せる兩郡出身人物の狀況を一々調査するといふことは蓋し容易の事業ではなく其上本社編輯局又多忙のため事業未だ半ばに達せぬ中に早くも所期の年月を経過し一時は挫折中止をすら考へたのであつた。しかし本書の發行を熱望される多數人士の鞭撻に依り勇を鼓して事業を続け四年後の今日最初の豫定より二ヶ年を遅れて漸く完成することを得たのである。本書の發行を待望し且つ編纂に對して直接間接援助を與へられたる郷友各位に對し吾人は茲に衷情を披瀝して先づ第一に發行遅延のお詫を申上げなければな

らない。
事情右の如くであるが故に本書の内容も又吾人の意に充たぬこと夥しい。先づ第一に調査の不行届に依つて多數掲載洩れの人物のあること殊に婦人に於ては數氏を除く外殆どこれを洩らしたのは寔に残念とするところである。次に重要な地位にある人又は大事業を経営せる等の人物であるに拘らず調査不徹底のため記事甚だ簡粗に過ぎたのが尠くないこと及び編輯局多忙裡に草稿したるため本書の行文甚しく索莫乾涸且つ誤りの点も尠くないこと等は實に遺憾である。更に又編纂のため長日月を費したるがため本書印刷後人事の移動したる向も尠くないのであるが、一日も停滞せざる人事のことではあるけれども、この点も又諒恕を得なければならぬものが多いのである。
しかしながら斯かる事業に萬全を期することは無理であるかも知れない。只吾人は誠意を盡して郷友各位が日常便宜のため及び郷里を研究せんとする郷友及び後進子弟の参考のために篠山新聞紙面擴張の記念事業として本書を刊行し聊か郷里の發展のために貢献せんことを期したのである。

一、 文

凡 例

- 一、人事は異動して止まず本書に掲載せる人事も本書印刷中に其地位境遇等の異動せるもの少なからず本書の記事は概ね昭和七年五月末現在に依つて編纂したり此点讀者の御注意を乞ふ
- 一、本書掲載人名の順席は原稿完成の順席を追ふて「いろは順」を繰り返したり故に順序全く不同である
- 一、物故したる先輩の登載はあまり奮きは取らず主として大正末から昭和時代まで生存したる人物を執ることとしたり其中田男爵及本郷大將等の経歴は比較的詳細に

欠

九、かゝ部

渡邊 若瀨 若林 若林 若生 若狹 若宮
 立夫 造介 榮助 隆

三六 三七 三六 三六 三六 三七 三七

鷺尾 和久 和田 和田 渡邊 渡邊 渡邊
 篤皓 邦五 周三 音吉 泰望 三

三六 三六 三七 三七 三七 三七 三六

綿貫 脇田 亙理 鷺尾 鷺尾 鷺尾
 藤三 伊三 章三 好憲 壽郎 憲治

三六 三六 三六 三六 三六 三六 三六

八、わゝ部

尾崎 小野 小野 小野 小倉 小倉 小倉 小倉 小倉
 健須 哲男 郎藏 助郎 藏夫 齋

三六 三六 三七 三七 三七 三七 三六 三六 三六

荻野 荻野 荻坂 荻坂 荻阪 雄山 與石 尾嶋 尾河 尾崎
 忠進 進比 秀澄 則郎 太郎 太郎

三六 三六 三七 三七 三七 三七 三七 三七 三六

荻野 荻野 荻野 荻野 荻野 荻野 荻野 荻野 荻野
 金純 彌兵 重藏 善五 演一 益三 寬二 萬助

三六 三六 三六 三六 三六 三六 三六 三六 三六

三〇、ろノ部

圓増重吉

二四二

圓増惣吉

二四二

越川駒次郎

四〇五

三一、ひノ部

彦坂宗光

二五二

樋口繁治

二五九

平野晴次郎

四七〇

廣瀬正次

二五三

樋口達兵衛

四七

平野豊三郎

四七

廣瀬幸次郎

二五三

平野晴治郎

二五九

平野健二

四七

廣瀬浩三

二五三

平野守成

二五九

平野寬治

四六

廣瀬孝七

二五三

平野元三郎

二五九

平野藍岳

四六

廣瀬貞二

二五三

平野嶺夫

二五九

平尾精一

三五〇

日置嘉藏

二五三

平野耕之進

二五九

平尾竹霞

三五〇

樋口直次郎

二五三

平野說之祐

二五九

人見晋

三五〇

樋口市左衛門

二五三

森垣正太郎

二五九

森本直次郎

二四四

三二、もノ部

森彦三郎

二四三

森垣正太郎

二四三

森本精一郎

二四三

森雄三郎

二四三

森本正一郎

二四三

森本直次郎

二四三

森武三郎

二四三

森口直之助

二四三

森田耕平

二四九

森本竹松

二四三

森口兼藏

二四三

森田梅造

二四九

森本良太郎

二四三

森口順吉

二四三

森田萬助

二四九

森本六太郎

二四三

森田百之助

二四三

森田龍二

二四九

森本初之助

二四三

森田信太郎

二四三

森田宣一郎

二四九

森本茂三郎

二四三

森田治郎

二四三

森田筆三郎

二四九

森本房吉

二四三

森田忠

二四三

森田筆三郎

二四九

森口彦太郎

二四三

森田忠

二四三

森田筆三郎

二四九

三三、せノ部

關口房太郎

二五〇

關川世男

四九

三四、すノ部

須原次郎兵衛

二五二

杉本健太郎

二五三

須藤廉

二五二

杉本榮次

四〇

菅野久太郎

二五二

杉田諦全

四〇

杉尾繁藏

二五二

杉彦二

四〇

杉本利喜藏

二五二

鈴木與三

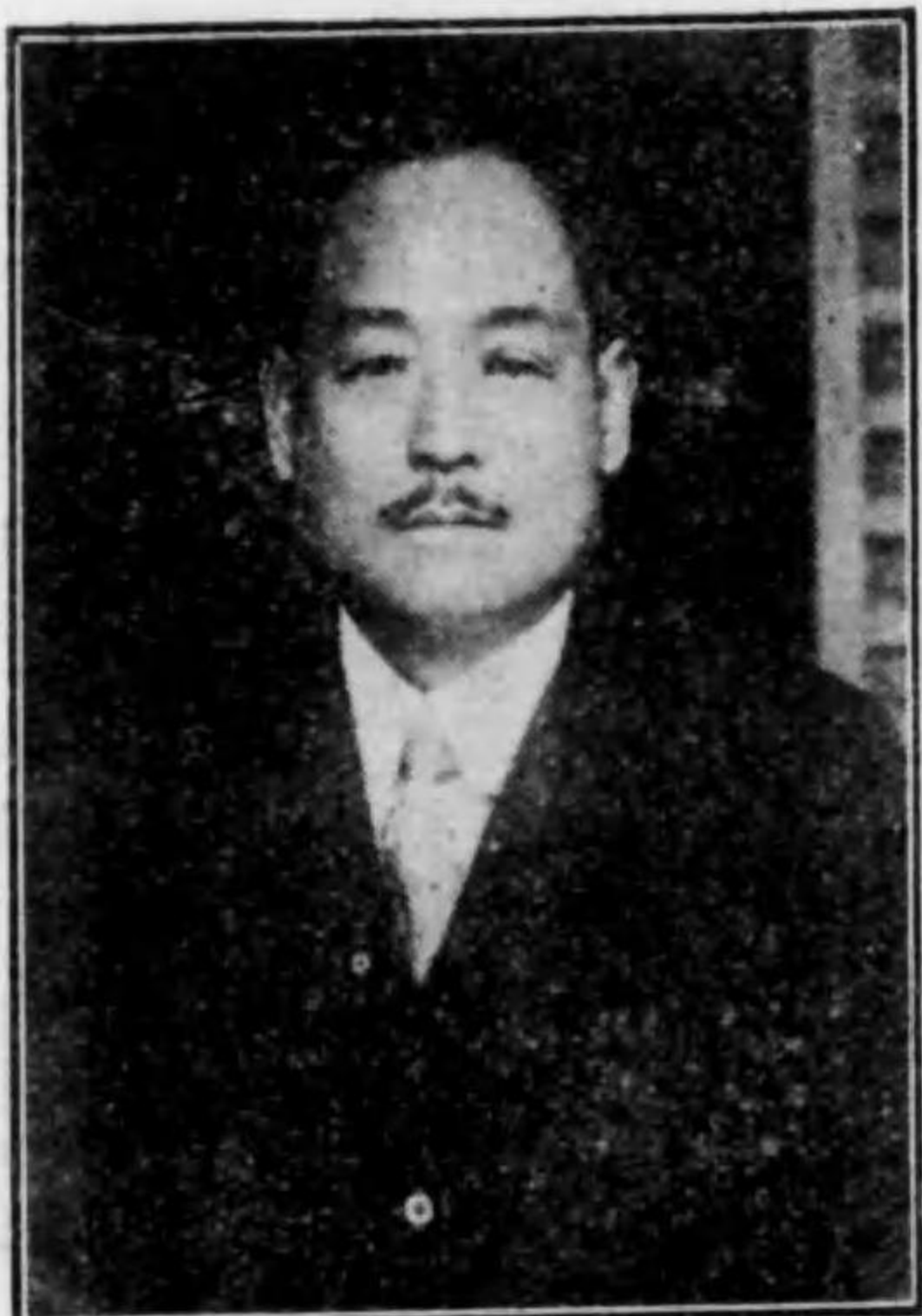
四〇

杉本理太郎

二五二

鈴木純三

二五二



井上雅二

住所 東京市外高田町目白
停車場上
原籍 氷上郡船城村山田一
三二二

明治十年二月十七日氷上郡神樂村字菅原郷足立
多兵衛氏の二男に生る長じて全郡船城村井上家
に入婚夫人は有名なる日本女子大學校長井上秀
子女史

現在關係ノ事業

海外興業株式會社取締役社長。株式會社南亞公司

取締役。海南産業株式會社監査役。祕露棉花株
式會社取締役社長。墨西哥産業株式會社取締役
社長。スマトラ興業株式會社監査役。東洋拓殖
株式會社常務顧問

現在關係ノ公共團體

海外移住組合聯合會理事。南洋協會專務理事。
東亞同文會理事。日土協會常務理事。日本蘭領
印度協會常務理事。海外協會中央會副會長。日
墨協會理事。辛未同志會理事。南洋栽培協會監
事。海外高等實務學校々長。軍縮問題調査委員
會委員。日亞協會理事。南米企業組合理事
其他 日本羅甸亞米利加協會、東洋協會、日濠
協會、日希協會、同仁會、國際植民協會、國際
聯盟協會、暹羅協會、海軍協會 以上各評議員
等にして我國、海外發展事業經營者並に功勞者
として既に第一人者である。特に南米及び南洋
滿蒙等への移民拓殖事業に活躍す。世界各國に
足迹到らざるなく世界周遊五回に上り、政府囑
詫其他の外遊數十回の多きに及ぶ。菅一衆議院

議員たり。

學歷及略歴

鳳鳴義塾四年修業
 海軍機關學校中途退學
 早稻田大學英語政治科卒業
 ウィンナ大學及伯林大學に於て經濟學及植民學專政
 臺灣總督府附、陸軍通譯
 遞信省韓國調査囑託、朝鮮日々新聞社長
 韓國政府財務官
 水原、光州各財務官
 光州農工銀行、光州手形組合各監督
 韓國宮内府一等書記官
 株式會社南亞亞公司常務取締役
 南洋協會理事
 東亞同文會幹事
 衆議院議員
 世界周遊五回、政府囑託其の外遊數十回

著書名

- | | |
|--------------------|--------|
| 一、支那論 | 明治三十二年 |
| 二、中央亞細亞旅行記 | 同 三十六年 |
| 三、モーリス氏植民史譯述 | 同 三十七年 |
| 四、埃及に於ける英國 | 同 四十年 |
| 五、巨人荒尾精 | 同 四十三年 |
| 六、四大陸遊記 | 同 四十四年 |
| 七、獨逸に於ける植民地經濟と本國産業 | 同 四十四年 |
| 八、セシル・ローズノ私生涯 | 同 四十四年 |
| 九、南洋 | 同 四十五年 |
| 一〇、平民宰相原敬 | 大正 十年 |
| 一一、改造途上の世界 | 同 十二年 |
| 一二、西半球を巡りて | 同 十五年 |
| 一三、海外雄飛、若き日本の新路 | 昭和 四年 |
| 一四、世界を家として | 同 四年 |
| 一五、移住と開拓 | 同 五年 |
| 一六、海外移住問題の實際 | 同 六年 |
- 昭和七年四月永見七郎氏著「世界を股にかけて」

と題する井上氏の傳記日本植民通信社から出版された。好著井上氏の面目躍如たるものがある

井上安次郎

住所 北海道小樽市堺町七
 本籍 神戶市兵庫鍛冶屋町
 明治十四、一〇、二、生 多紀郡北河内村出身

合同漁業株式會社購買販賣課主任
 東洋專門學校卒業。元陸軍通譯及日露戰爭從軍兵庫井上豆粕製造所支配人。
 明治四四、北海道にて海陸物産問屋業開始。小樽商業會議所議員。北海道農産商聯合組合長。北海道博覽會評議員。小樽市港灣調査委員。昭和七年合同漁業株式會社創立と共に入社。日本赤十字社特別社員。日本武德會名譽會員。帝國水難救濟會名譽會員。同仁會名譽會員。動六等

井上德治郎

住所 東京府豊多摩郡天沼
 四三二
 多紀郡城北村新庄出身

陸軍一等主計正
 杉並町に於ける自治團體の幹部として盡力す
 明治二十四年陸軍教導團生徒を振出しに陸軍に入り經理學校を出で遂に陸軍一等主計正に進む此間陸軍省軍務局、經理局、經理學校教官、憲兵練習所教官、宇品糧秣支廠長、第十九師團、第四師團、朝鮮軍、經理部、朝鮮軍倉庫長、千住製鐵所會計課長、第八師團經理部長、等に歴任大正十四年四月退職（正五位勳三等）

井上禎三

住所 和歌山市豊原町四丁目
 本籍 京都府加佐郡舞鶴町
 南田通一二六ノ五
 氷上郡春日部出身

和歌山市豊原町四丁目に於て自宅開業（小兒科

專問)

經 歴

- 一、大正二年水上新井郡尋常高等小學校卒業
- 一、明治四十四年十月親孝行の廉により縣より賞狀賞品を受く
- 一、大正二年柏原中學校に入學、大正七年三月卒業
- 一、大正八年京都府立醫學專門學校に入學、大正十二年五月卒業
- 一、大正十二年五月小倉市記念病院内科に勤務次で十三年下關市紀念病院分院内小兒科に轉勤、昭和元年十二月退職
- 一、昭和二年一月日本赤十字社和歌山支部病院小兒科に奉職、昭和六年十月に退職
- 一、昭和六年十一月より自宅に於て小兒科専門診療に従事す

井 關 安 治

住所 大連市神町二番地法院官舎
本籍 多紀郡八上村奥谷五〇八

明治三十三年四月二十五日生

關東廳法院檢察官

正七位 法學士 高等官六等

經 歴

- 大正七年鳳鳴義塾卒業、大正十一年山口高等學校卒業、大正十四年七月京都帝國大學法學部法律科卒業
- 昭和二年四月司法官試補京都地方裁判所詰
- 昭和三年十二月任檢事、京都地方裁判所豫備檢事、
- 昭和四年一月宮崎地方裁判所豫備檢事
- 同十二月補松江區裁判所檢事兼松江地方裁判所檢事
- 昭和五年九月任關東廳法院檢察官
- 昭和五年九月補關東廳地方法院檢察官
- 昭和七年三月兼補關東廳高等法院檢察官

井 塚 佐 次 郎

住所 本籍 藤山町魚屋町二番地
本籍 島根縣能義郡能義村利弘

藤山町本町井塚齒科醫院主

經 歴

- 東京市神田三崎町大成中學(明治三十六年卒業)
- 大正元年齒科醫免許全四年三月より當藤山開業
- 趣味 俳句、繪畫

藤山町に於ける俳人として有名

大正二年より十五年迄神田、大芋、雲部の各小學校長たり。

井 本 隆 雄

住所 東京市外下落合一、七六七
本籍 水上郡生郷村石生

東京渡邊倉庫株式會社監查役

經 歴

- 柏原中學校卒業後多年商工業に従事す
- 趣味 宗教研究

井 谷 千 代 治

住所 多紀郡大芋村宮代
本籍 同

明治十七年三月二十三日生

大芋信用組合常任理事、村會議員、學務委員

區 長 略 歴

- 明治三十八年兵庫縣御影師範學校卒業
- 大正十五年迄小學校教員(大芋、藤山、福住、神田)

井 本 幾 太 郎

住所 多紀郡味閑村東吹
本籍 同

農業 勳八等

村會議員、水利組合會議員、氏子惣代

經 歴

- 日露戰役に出征勳八等に叙せらる

大正二年至十三年耕地整理組合會議員及評議員
村農會物代及評議員・吹普通水利組合會議員・
氏子惣代、村會議員

市瀬元吉

イチノセ ゲンキチ
住所 兵庫縣武庫郡大田村
廣田字能登
本籍 多紀郡篠山町乾新町

明治三十一年一月廿七日生

大阪工業試験所技師
工學博士正六位

略 歴

大正四年三月東京高等師範學校附屬中學卒業
大正七年七月第二高等學校卒業
大正十年三月東北帝國大學工學部化學工學科卒業
同年五月商工省大阪工業試験所に奉職
現在に至る
昭和五年の秋から鐵道省の依頼を受けカーボン

六
ブラツシュ製造の研究に従事し昭和七年七月に
到つて外國を凌ぐ優秀なものを完成工業界に大
貢獻を齎らすことを得た。なほ同月かねて提出
中のカーボンに關する研究論文が東大教授會を
通過して工學博士の學位を得た

一瀬多磨喜

住所 多紀郡城南村眞中條
中

同明治九年生

神官 眞南條二村神社々掌
掌典研究所 多紀郡支所長

略 歴

今田村城山稻荷神社
古市村南矢代犬歲神社
城南村谷山神社
谷山岩崎宇土南矢代
栗栖野各氏神社兼務

市野禎市

住所 多紀郡今田村上立杭
本籍 同
三三〇
明治二十九年九月三日生

丹波燒御問屋。今田村會議員

略 歴

大字區長

住友銀行人事部勤務

略 歴

大正四年京都帝國大學法科大學法律科卒業
大正四年二月住友合資會社に入社
大正九年、十年頃約二年間病氣のため歸郷其間
篠山新聞主筆たり後又住友へ復活入社
住友電線製造所會計主任等を経て目下住友合

市野吉五郎

住所 多紀郡今田村上立杭
本籍 同
三三〇
明治七年五月二十六日生

立杭燒御問屋。今田村信用組合理事

略 歴

大字區長一期。村會議員三期

趣味 茶、生花

今村金兵衛

篠山町魚屋町

篠山町實業協會副會長
家屋調査員

區長

略 歴

鳳鳴義塾卒業
豫備陸軍歩兵中尉

飯田好文

住所 西宮市字南郷三六三
本籍 八
多紀郡篠山町山内町
三〇

明治二十三年十一月二十三日生

町會議員（多年間）

信用組合役員

永年町政に貢獻したかどにより昭和七年篠山町より表彰状及銀杯一組を受く
從七位勳六等

八

今村鷹次郎

住所 横濱市中區長者町七丁目一八
元 多紀郡篠山町魚屋町三三

現 大阪市西區京町堀上通り四ノ二五
明治廿八年三月十日生

齒科醫師

經 歴

小學校及中學校は病氣の爲に入學出來ず自宅勉學す

大正二年四月大阪齒科學校卒業

大阪にて齒科醫師學說試驗合格

大正七年東京齒科醫學學校にて實地研究

同東京にて齒科醫部實地試驗合格

大正八年より横濱にて開業

横濱市齒科醫師會常務理事

長者町内役員

趣味 園芸、義太夫、旅行

今村倍次郎

住所 東京市外矢口町安方四三八
本籍 篠山町魚屋町出身
明治二十五年一月一日生

東京電氣株式會社研究所副主管 工學士

經 歴

明治四十二年鳳鳴義塾卒業

大正六年東京帝國大學理學部實驗物理學科卒業

大正六年より大正八年大阪電球株式會社勤務

大正八年より東京電氣株式會社に勤務

帝國發明協會より發明表彰を受け金杯受領

電球、放電管、無線用真空管、X線管球、体温

計等の研究に従事

大正六年社命により歐米視察

今西眞太郎

住所 多紀郡後川村
本籍 同

後川村助役

經 歴

村會議員、學務委員、助役

日露戰役の功により勳八等功七級を賜ふ

今西榮助

住所 多紀郡後川村中
本籍 同

農業

經 歴

村會議員。丹南銀行創立當時より取頭をなす

今は樂隱居をなす

今西實二

住所 多紀郡後川村中
本籍 同

農業

經 歴

鳳鳴義塾卒業。村會議員。學務委員。丹南銀行取締役。寺社惣代

今西六太郎

住所 多紀郡後川村奥
本籍 同

農業。村會議員

經 歴

部落惣代。縣農會より表彰を受く

今藏萬次郎

住所 多紀郡大芋村市野々
本籍 同
明治十三年四月二十七日生

大芋村長、信用組合長、消防組頭、醸造研究會

九

長、大芋物産株式會社長、大芋村養蠶組合長、多紀郡自治協會理事、郡林務委員、功七級勳七等

經 歷

明治三十三年歩兵第二十聯隊入隊同三十六年十一月歸郷。三十七八年戰役從軍三十九年召集解除。四十年市野々區長六ヶ年。四十二年大芋村土地委員八ヶ年間。四十三年村會議員八ヶ年間。大正四年大芋村助役四ヶ年。大正九年より學務委員六ヶ年間。大正十二年大芋村信用組合理事並に常務理事。大正十四年村農會會長。明治四十四年帝國在郷軍人大芋分會會長九ヶ年間。昭和二年より多紀郡養蠶同業組合評議員。三十七八年戰役の功により功七級勳七等を授く。大正三年産米改良の實蹟顯著なるにより知事より賞状を受く

市山 諒

篠山町二階町二五

洋服商（佐々木洋服店主）町會議員

經 歷

區長。副區長。國勢調査員等

入江 武男

住所 大連市清水町三番地
本籍 一號官舎
兵庫縣多紀郡篠山町北新町七四

明治十二年三月二日生

遞信技師 正六位勳五等

略 歷

明治廿七年鳳鳴義塾に入り三十年退塾。上京錦城中學。東京郵便電信學校技術科卒業。東京、長野、新潟、廣島、大阪、宇都宮の各遞信局に勤務。電信電話の建設に従事す。大正十二年遞信局技師拜命。十四年渡滿關東廳

遞信技師拜命。旅順長春間安東縣營口間の通信線路及機械の建設保守に従事す。滿洲事變勃發以來東四省内の通信經營に關與す

伊東謙治郎

住所 明石郡垂水町西垂水
本籍 高丸
水上郡大路村下三井庄一三七

經 歷

神戶川崎造船所製飯工場 薄飯課長
明治卅八年柏原中學校卒業
全年川崎造船所へ入社
大正八年二月社命により渡英
全十一年八月歸朝
全十三年四月製飯工場に轉任 今日に至る
備 考
工兵少尉 正八位

伊熊忠七

住所 城北村郡家
本籍 同

經 歷

酒類醬油販賣業。煙草小賣業。區長
篠山町立町合資會社丹陽組事務員
學務委員。區長

伊塚利三郎

住所 多紀郡大山村一印谷
本籍 同
明治七年十二月十九日生

經 歷

農業。村會議員
勳七等
明治二十七年十二月現役兵として入營。遼東半島及臺灣守備に従軍す。三十三年大山書記、三十七年十月日露戰役に従軍、四十年多紀郡書記、四十年十二月陸軍に服役、大正六年兵庫縣穀物生産検査員養蠶技手

伊勢卷太郎

農業。大山村會議員

住所 多紀郡大山村大山宮
本籍 三四六
明治十年三月五日生

氏三十七年間勤績す

一一

伊勢 楳吉

吳服太物洋反物商

住所 多紀郡大山村大山宮
本籍 三三八
明治二十三年五月四日生

伊藤 貫三

農業

在郷軍人分會長、部落農會長、農事獎勵委員、
消防小頭

住所 多紀郡畑村瀬利一七
本籍 同
明治二十七年三月廿三日生

伊藤定次郎

農。村會議員、學務委員、多紀郡醸造組合副組
合長、杜氏

住所 多紀郡畑村瀬利一七
本籍 同
明治元年九月廿九日生

伊藤武兵衛

農
經歷

住所 氷上郡大路村中山
本籍 同
文久二年八月十七日生

畑村會議員三期在職中。部落組長。學務委員。
醸造組合副會長。西宮酒造杜氏會會長。酒造杜

村會議員四期收入役一期、助役一期
學務委員一期、區長一期



石井正之助

醫師 南河内村醫、本郷校醫

經歷

住所 多紀郡南河内村黒田
本籍 八一七
元籍 同
鳥取縣八頭郡若櫻町
若櫻
明治十九年二月十二日生

石田九郎右衛門

畑村和田石田家の總本家
元畑村々長

多紀郡畑村和田

明治四十四年東京日本醫學專門學校（現日本醫
科大學）卒業
四十三年東京にて文檢及第醫師免狀下附、東京
御茶水順天堂病院勤務
大正元年本郡に於て開業
大正三年文部省學校衛生講習會第一回修了

略 歷

家業農、區長、各惣代、村會議員（多年）
學務委員其他の各委員、畑村農會長等を歴任し
地方自治産業に貢献淺からず

石田貞次郎

住所 朝鮮清津府驛前
本籍 多紀郡畑村字和田

(石田九郎右衛門氏令弟)

木材商

清津府會議員、清津商工會議所議員、浦項洞町
總代、清津神社總代

經 歷

大正八年六月朝鮮に渡り
木材商を營み今日に至る
趣味 謠曲、晚酌(三本)

明治四十三年以來本業に従事し鐵道、逓信、農
林省、兵庫縣廳、神戸市役所指名人、最近宮津
線網野驛、大阪營林局峯山担当區域官舎新築縣
道、篠山川の渡瀬橋、京口橋等架設

石田梶之助

住所 多紀郡畑村和田
明治九年七月十三日生

農 村會議員

經 歷

酒造杜氏、畑村醸造研究會評議員、部落研究會
長、村會議員、新京口橋渡初め三夫婦の目出度
き家

石田金太郎

住所 多紀郡味間村大澤一
六七ノ一
本籍 多紀郡城南村岩崎四
九二

明治九年六月三日生

土木建築請負

石田工務所 電話篠山貳壹參番

經 歷

魚類商

石田莊太郎

住所 多紀郡畑村般若寺
本籍 同
明治三十一年六月三日生

經 歷

大正元年より魚類乾物商を營む

石田德次郎

多紀郡後川村

後川村長、農會長

經 歷

後川村收入役、村會議員、後川村助役
趣味 狩獵、淨瑠璃

石橋康夫

北河内村上板井

村信用組合理事、消防組頭

經 歷

兵庫縣立柏原中學校卒業
青年團長 郡青年團理事
在郷軍人會長青年訓練所指導員
後備陸軍歩兵中尉

石田幸次郎

住所 多紀郡後川村上
本籍 同

農 業

經 歷

部落惣代、村會議員、學務委員、組合理事

石橋恒三郎

多紀郡北河内村上板井

收入役

經 歷

村會議員、學務委員

稻山平太郎

住所 多紀郡味間村東吹
本籍 同

味間村長

多紀郡自治協會主事兼務、多紀郡町村組合副管理者、多紀郡養蠶業組合長、多紀郡農會副會長、多紀郡畜産組合副長、多紀郡教育會理事、多紀郡釀酒業組合理事、産業組合中央會多紀郡部會長、神戸地方裁判所商事調停委員、兵庫縣茶業組合聯合會議所副會頭、兵庫縣養蠶組合聯合會評議員及代議員

多紀郡自治協會主事兼務、多紀郡町村組合副管理者、多紀郡養蠶業組合長、多紀郡農會副會長、多紀郡畜産組合副長、多紀郡教育會理事、多紀郡釀酒業組合理事、産業組合中央會多紀郡部會長、神戸地方裁判所商事調停委員、兵庫縣茶業組合聯合會議所副會頭、兵庫縣養蠶組合聯合會評議員及代議員

經 歴

明治四十五年三月多紀郡書記任官後首席

郡書記として郡行政に當り大正十五年六月地方官制改正に依り郡役所廢止後自治協會主事として郡の各種團体に關係、昭和六年二月味間村長に當選

稲次 董章

イナツギ ノゾアキ 住所 大阪市外大軌線布施町
本籍 兵庫縣氷上郡吉見村
梶原一ノ一屋敷

大正十年以來現地に醫術開業以て本日に至る

帝國在郷軍人會布施分會名譽會員

大阪市電氣局、布施町衛生組合

布施小學校醫等囑託

經 歴

氷上山東、梶原に生る。家累世醫を業とす八代の嗣たり愛知醫專（現今名大前身）卒業、氷上

稻山莊太郎

住所 多紀郡味間村東吹
本籍 同
明治二十四年四月三日生

農業

郡立柏原病院醫員、明治三十七八年戰役從軍出征凱旋後善通寺豫備病院全衛戍病院、姫路衛戍病院に軍醫として服務、南滿洲鐵道株式會社創立に際し拔擢せられ大連病院大石橋安東縣各分院長橋頭醫院長等歴任、關東都督府、臨時防疫部、海務局等各醫務囑託

明治三十七八年戰役の功に依り勳六等單光旭日章下賜（正八位）

趣味としては謡曲（寶生流）と俳句

板谷寅之助

住所 多紀郡今田村上小野
本籍 同
明治九年一月二十三日生

農

今田村會議員、今田村小野原區長

經 歴

村會議員二期、大字區長十八年、農會總代二期

板谷與三郎

住所 多紀郡今田村
本籍 同
明治十三年五月二十一日生

多紀郡今田村收入役
帝國在郷軍人會多紀郡聯合分會副長
正七位勳六等功七級

經 歴

明治三十二年歩兵第二十聯隊に入隊

和泉長太郎

住所 兵庫縣多可郡重春村
和泉三
本籍 舊本籍篠山町南新町
（土族）

平野式大幅織機六十台の工場經營

(輸出織物大巾縞三綾製年産額十五萬円)

南洋、印度、エジプト、南米、地中海沿岸地方と取引

幡州織工業組合員總代、多可郡工業會評議員、和日立憲同志會副會長

篠山小學校卒業後神戸辨天實業學校に學ぶ

大正八年四月豊田式動力織機三十台をすえ組綿交織内地向を營む

農

經 歴

村會議員、區長

一八

池田藤五郎

現住所 多紀郡大山村東河

本籍 地三六

明治六年五月十一日生

農業

東河地區長

岩崎眞澄

住所 廣島縣江田島海軍兵

本籍 學校官舎

多紀郡大山村大山上

一二

明治二十五年十一月九日生
從六位、文學士、兵學校教官

經 歴

第三高等學校卒業

東京帝國大學文科卒業

慶應大學豫科教授

家永松之助

住所 多紀郡福住村藤ノ木

本籍 同

明治七年三月十日生

岩本茂一

住所 篠山町北新町

本籍 香川縣三豐郡一ノ谷

村大字本大

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭

圖書科專任

岩本一聲と號し洋書日本書何れも巧みである

大正八、三、二五、京都市立繪畫專門學校卒業

畑 彌藏

多紀郡篠山町二階町

三國屋吳服店主

二階町區長

畑千太郎氏の令弟、機を見るに敏、商業手腕に

勝れ三國屋今日の大をなすに到る

岩橋 ギン

篠山町二階町三二

明治四〇、三、三〇、共立女子職業學校卒業

全 四五、四、一、多紀郡立高等女學校助教諭

心得

大正一一、四、一、兵庫縣立篠山高等女學校教

諭、昭和七年四月勇退、閑地に就く

畑七右衛門

氷上郡春日部村多利

衆議院議員 政友會所屬

氷上郡春日部村の素封家。若くして縣會議員に
選ばれ昭和六年遂に兵庫縣會議長となる。

兵庫縣下に於ける政友會の重鎮たり。昭和七年
二月の衆議院議員總選舉に兵庫縣第五區より政

友會公認候補として推されて立候補し、有力なる民政黨公認候補にして前代議士たる田昌氏と競争し遂に田氏に勝ちて當選す。

畑 敬三郎

住所 多紀郡畑村瀬利
本籍 同

農業

畑村畑氏の總本家戸主

經 歴

畑六郎左衛門時能の子孫にして其居城八百里城跡は天正十一年明智光秀の爲に陥る、時に其城の古門を下し瀬利に居住す
牛之丞の子守國の住宅にして其古門其後修繕を加へ尙今現存す

二〇



畑 時治

住所 多紀郡畑村瀬利六五
本籍 同
慶應二年八月二十一日生

畑村長

經 歴

畑家の總本家畑敬三郎氏の令弟
慶應二年瀬利村に生る明治初年二十歳頃より瀬利村惣代、村會議員、畑村助役、畑村農會長畑村長等歴任す
大正八年畑村消防組頭、衛生組合長、林野統一整理委員長

第一回國勢調査委員、國勢調査紀念章を授り
在郷軍人會畑村支部顧問、畑村青年團顧問、醸造研究會畑村支部長、傳染病豫防委員
太寧寺担徒惣代、神社惣代等を歴任す
大正十五年畑村より多年の功勞により表彰感謝狀を受く



畑 貞一

多紀郡畑村瀬利

篠山新聞主筆

經 歴

東京正則英語學校卒業
早稻田大學法科高等豫科及専門部政治經濟科に學ぶ
大正四年小學校正教員の免許狀を受く
約五年間多紀郡内にて小學校教員奉職
大正八年九月朝鮮新聞記者となり、大正九年同年同社政治部長となり大正十年東京支局長となり大正十一年四月退社
大正十一年五月京城日日新聞東京支局長となる
大正十二年一月退職。大正十二年一月雜誌「内政」の主幹たり。同年四月雜誌「太平洋」を創刊し自ら社長となつて經營。同年八月大震災に遭ひ歸郷。大正十三年八月篠山新聞社より聘せられて主筆となり引續き今日に到る。



畑 千太郎

篠山町魚屋町

魚屋町區長、同振商會長、大農會副會長（篠山
雜貨商組合）三國屋雜貨店主

經 歴

昭和三年五月篠山小學校へ勸業債券壹千円寄附
全年七月幼稚園及小學校へ増築費へ金五百円寄
附に付七年四月一日白根知事より表彰さる
三國屋吳服店主畑彌藏氏の令兄、漢學の造詣深
し、日清戰役前大阪同盟蓄貯銀行、琴平銀行、

畑 徳次郎

住所 多紀郡畑村瀬利
本籍 同

農

信用組合理事、區長、村會議員

經 歴

瀬利部落評議員、畑村農會役員、部落農會長
村會議員、信用組合理事
多紀郡養蠶組合役員
郡農會畑村農會より賞品又は褒狀を受く
瀬利區長

高濱鑛山株式會社其他數社の重役を兼ね大いに
活躍したが戰後の反動に遭ひ、明治三十二年歸
郷郷里篠山で雜貨商を營む。傍ら篠山實業協會
を組織して盡瘁す。其後富士生命に入社し外交
主任より大阪支店助役支店長を経て昭和二年常
盤生命神戸支店長に就任、昭和四年家事の都合
により歸省す

酒造杜氏又は巡廻教師等をもなす

畑 幸三郎

多紀郡畑村火打岩

明治十三年一月十四日生

教 員

經 歴

畑村役場書記
篠山聯隊區司令部附服務工兵曹長
姫路師範學校卒業
帝國在郷軍人會畑村分會長同顧問
多年多紀郡内に於て小學校教員奉職
勳七等

經 歴

明治二十二年の創業先代より引續き經營す絹糸
製糸業を營む事多年毎年二萬貫餘の原品(繭)を
買入る昭和元年多紀郡製糸工場幹事 昭和三年
五月兵庫縣製糸同業組合評議員
昭和四年五月御行幸に際し縣下重要物産たる畑
製糸場主の謹製に係る白絹糸を天覽に供するの
光榮に浴す

畑 清次郎

多紀郡畑村畑宮二四〇

明治十七年七月五日生

畑村收入役、信用組合理事、勳八等

經 歴

明治三十七年第十師團騎兵十聯隊入隊
日露戰役出征、大正六年陸軍騎兵伍長
明治四十二年六月畑村役場書記
大正十一年五月畑村收入役

畑 愛之助

住所 多紀郡畑村瀬利
本籍 同

製糸業 多紀郡製糸工場會役員

信用組合理事、壇徒惣代、氏子惣代
帝國在郷軍人會畑村分會顧問
軍人會より表彰せらる、日本赤十字社長より感
謝狀並木盃を授與せらる

畑 五三郎 多紀郡畑村火打岩

農業及酒造杜氏、村會議員

經 歴

酒造杜氏目下花木酒造場に勤續す
部落議員、部落農會役員、衛生委員
担徒惣代氏子惣代
村會議員

畑 榮一 住所 多紀郡畑村火打岩六
本籍 二三
明治三十三年三月十一日生

農業及酒造杜氏、畑村青年團顧問

經 歴
大正十一年四月畑村青年團副團長
大正十四年畑村青年團長郡青年團理事
大正三年菊正宗酒造元本嘉納商店醸造部へ入店
昭和三年杜氏となる

畑 延次 住所 多紀郡畑村火打岩
本籍 同

畑村役場收入役

經 歴

大正八年より畑村役場書記となり
現在畑村收入役たり

畑 秀藏 篠山町立町

乾物食料品店 中筋屋店主

篠山魚市場取締役

多年福住村助役たり

畑 徳次郎 福住村中原山
明治十一年七月五日生

會社員

福住銀行常務取締役、部落農會長
村農會評議員

畑 休太郎 篠山町西町
本籍 多紀郡岡野村

篠山温泉を經營
同温泉の創設者
多紀郡内に於ける石炭の一手販賣業經營

畑 勘太郎 福住村西野々
明治二年一月十日生

農
福住村信用組合常務理事長

畑 幸哉 福住村西野々六〇
明治廿三年二月二十五日生

農

區長 學務委員

統計調査員

經 歴

大正二年京都府船井郡八木町私立興風義塾入學
五年同塾卒業 七年米穀検査員助手
十五年福住村立青年訓練所指導員
昭和三年村立農業公民學校教科教授囑託
大正十四年西宮市辰馬本家酒造株式會社酒造場
入店

畑 由松 多紀郡南河内村口阪本
文久二年九月十一日生

農

經 歷

明治三十二年村會議員四期當選 傳染病豫防委員當選
大正元年信用組合監事及評議員
三年奧池郷耕地整理組合期成會議員並に評議員會社主任
五年農會評議員當選 學務委員
六年奧池郷耕地整理副長
九年口阪本耕地整理組合長

畑 榮三郎

岡野村野尻一三一

明治十二年五月九日生

農 部落副區長

經 歷

村會議員

二六

畑 庄治郎

岡野村野尻一〇二

明治二十四年六月十日生

農 村會議員

經 歷

高等小學校卒業後海軍に服役三等兵曹

畑 治三郎

岡野村今福三六八

明治八年十月五日生

農 區長 岡野村農會副會長

畑尾甚三郎

多紀郡畑村瀬利

明治三十八年二月一日生

畑村役場主席書記

經 歷

大正十三年鳳鳴中學校卒業
全年畑村役場書記となり引續き今日に至る

波部秀太郎

住所 日置村八上新一四〇

明治八年八月八日生

醫師自宅開業 學務委員

經 歷

多紀郡醫師會副會長

日置小學校醫 學務委員

大阪醫學得業士

波部光民

住所 大阪市河内郡加美村

正覺寺大浦別荘内

本籍 多紀郡日置村八上新

大阪市吏員

市立九條職業紹介所長

大阪市昭和信用組合九條事務所主事

大阪市労働共済會九條出張所幹事

經 歷

大正六年鳳鳴義塾卒業 大正十四年早稻田大學
政治經濟學科卒業、同年一年志願兵として入隊

波部 靖

住所 日置村上宿

本籍 全

明治卅八年十一月三十日生

收入役

學 歷

縣立三田農林學校卒業

波部甚太郎

住所 日置村上宿

本籍 全

銀行員 村會議員

經 歷

二七

篠山稅務署屬 日置村收入役
中丹銀行取締役 日置支店在勤

波部貞之進

住所 多紀郡日置村
本籍 全

村會議員
菓子製造販賣店波部榮進堂主

波部鶴之助

篠山町南新町

南新町區長

經 歴

篠山町南新町區長
篠山銀行常務取締役として篠山町財界に活躍す

原 富 藏

多紀郡味間村味間奥一三一
三
明治廿三年十一月廿三日生

農業、酒造杜氏
村議會員

經 歴

多紀郡醸造組合評議員
多紀郡養蠶同業組合評議員
味間村信用組合監事
酒造杜氏に多年従事す

原田治郎松

福住村幡路二〇八
明治十年八月廿四日生

農
村農會評議員 前部落農會長

原田 元吉

住所 多紀郡大山村明野五
明治四年七月十一日生

農業 元明野區長

原田辰之助

雲部村縣守

農業 區長

經 歴

村會議員 第一回國勢調査員

波多野榮五郎

多紀郡味間村大澤
慶應元年十二月生

歩兵少尉 元村長
村會議員 部落惣代

經 歴

明治十八年教導團に入り日清日露戰役に從軍特進

波多野安治郎

住所 南河内村黒田四
六
明治六年一月十一日生

篤農家

經 歴

明治三十二年より村協議員
四十一年より米穀検査員、十三年間就職
村會議員二期間
第一回國勢調査員
大正九年度縣農會稻作收穫競進會に於て賞狀
を受く

一反歩當收量四石九斗三升二合

全年三月三十一日現職

三〇

島山拓一

住所 水上郡柏原町柏原
本籍 廣島縣芦田郡常金丸
一八五三

町立柏原病院長

島 佐吉

住所 多紀郡今田村釜屋三
〇四
明治九年八月十一日生

農業兼鑛泉業

學務委員 兵庫縣方面委員 村會議員

經 歴

大正九年岡山醫科大學卒業、同年より昭和四年まで同大學に於て醫化學四科學並に小兒科學研究 昭和五年二月兵庫縣立神戸病院奉職 昭和五年四月博士の學位を愛く、昭和六年四月現職へ

鑛泉業を經營し本縣同業組合に加盟、同盟會評議員たり、全國産業博覽會に於て金牌授與せらる、第二回本縣品評會に壹等賞を受く

島山兼人

篠山町西新町
本籍 廣島廣島市八丁堀一
一三

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭

(修身、教育、國語、漢文科)

昭和四年三月七日廣島高等師範學校卒業

島中祐太夫

多紀郡大芋村小原

農業 學務委員

經 歴

村收入役 村長 郡會議員

島中耕之助

大芋村小原

在郷軍人分會長 村農會技術員

經 歴

縣立農學校卒業 豫備陸軍歩兵少尉 正八位

林 賢太郎

住所 日置村曾地中
本籍 全

明治二十二年十一月八日生

農 村會議員 信用組合長理事

經 歴

明治四十三年和歌山縣立農林學校農業科卒業 大正十四年日置村信用購買販賣組合長理事 村會議員

林 利幸

南新町八十五番屋敷
嘉永二年十一月十五日生

舊篠山藩士

維新後府縣廳を置かれたる時篠山藩廳の吏となる、後京都の獨逸學校に入學

郡區改正の直後地方吏となり又商事會社に従業

各所に轉輾明治三十九年郷里に歸り餘生を樂しむ今尙ほ頑健

大正二年以來引續き篠山町會議員たり

林 シゲノ

篠山町北新町二八
本籍 德島縣勝浦郡勝占村
大字大谷一〇九

兵庫縣立篠山高等女學校教諭

昭和二年三月二十五日東京高師第六臨時教員養成所歴史科、地理科卒業

林 種吉

住所 日置村曾地中
本籍 全

明治七年八月六日生

三一

農
村會議員 學務委員

林 守

住所 日置村會地中
本籍 全
明治廿六年

農

在郷軍人會日置分會副長

經 歷

鳳鳴義塾卒業

三二

萩原林三郎

篠山町東新町

篠山印刷合資會社長
大阪毎日新聞販賣店主
篠山毎日新聞社長

經 歷

元篠山町會議員

元篠山通報担当

羽田初太郎

篠山町立町一三二

區長

合資會社丹陽組監査役

經 歷

元町會議員、學務委員

煙草專賣當初以來多紀郡、有馬郡で煙草元賣捌業を經營、篠山銀行重役、篠山商事株式會社重役、篠山信用組合第一期幹事たり、攝丹自動車

林 松之助

多紀郡村雲村貝田二二五

明治十年十二月二十九日生

大正四年八月兵庫縣穀物生産検査員拜命
元村會議員 村農會長

株式會社の重役等を歴任し篠山町に於ける有力なる實業家たり

橋本作太郎

現住所多紀郡草山村遠方

六一〇
明治十五年四月一日生

草山村長、農會長、多紀郡農會豫備議員、養蠶同業組合評議員、清和會支部長、多紀郡振武會草山支部長、木炭改良組合長、養蠶改良進耕會長

經 歷

草山村書記、部落惣代、兵庫縣産米獎勵委員、兵庫縣穀物生産検査委員、兵庫縣米穀輸出検査委員、兼務囑託、村會議員、信用組合理事、助役、土地賃貸價格調査員、國勢調査員、草山村

臨時部落林野統一委員、多紀郡養蠶同業組合代議員、大久保郵便局長、明治四十一年十一月大水害復舊に關する功勞として木杯壹個村長より受く、大正十二年十一月四日兵庫縣知事より産米改良功績に依り銀盃壹組を受く、大正十二年十一月四日穀物生産検査員十五年勤績の功により兵庫縣農會長より置時計壹個を受く

羽田要太郎

篠山立町一三二

大阪地方專賣局篠山煙草販賣所長

篠山町會議員、學務委員

篠山消防組副組頭

歩兵少尉

經 歷

京都市立第二商業學校卒業

篠山聯隊へ一年志願兵として入隊

在郷軍人篠山分會長

多年多紀、有馬兩郡の煙草元賣捌所を經營主宰す
正八位

橋本一良

住所 古市村波賀野新田
本籍 鳥取縣氣高郡
寶木村寶木

明治十九年十二月十五日生

大阪大同生命保險會社 社員

經 歷

警察署に勤務、巡查部長
俳句を趣味

三四

農會惣代

信用購買販賣組合監事

經 歷

草山村遠方部落惣代

全 農會惣代當選

橋本作藏

住所 多紀郡大山村石住一
慶應二年一月十七日生

農業

元石住區長

橋本信太郎

現住所 多紀郡草山村遠方
五五八
明治十七年十一月一日生

遠方部落惣代

經 歷

草山村收入役、十四ヶ年間

村會評議員

信用購買販賣組合専務理事

橋本勝藏

現住所 八 多紀郡草山村遠方
明治三年五月十九日生

草山村林務委員

橋本信利

現住所 多紀郡草山村遠方
六六九
明治十六年四月二十五日生

草山村會議員

經 歷

春日温泉株式會社重役

林 彌二郎

住所 兵庫縣氷上郡黒井町
本籍 同
明治廿九年一月一日生

黒井町々會議員

黒井信用購買販賣組合監事

黒井船城組合會議員

柏原自動車株式會社勤務中

阪東政雄

住所 大阪市天王寺區外一
田院町三番地
本籍 氷上郡吉見村上田

住友合資會社經理部商工課勤務

經 歷

大正四年柏原小學校卒業

大正五年第三高等學校入學

大正八年 右卒業

大正八年東京帝國大學法學部政治科入學

大正十一年 右卒業

大正十一年佳友合資會社入社

柏原中學校 早稻田大學高等學院
氷上郡役所、株式會社黒井銀行、株式會社戊辰
銀行、黒井町青年團長、氷上郡青年團幹事、氷
上郡農會幹事、氷上郡養蠶組合幹事、佐治川水
害豫防組合幹事、柏原町外二十二ヶ町村組合幹
事、兵庫縣公有林野整理委員、兵庫縣病虫害豫
防督勵委員、衆議院議員選舉監視官、縣會議員
選舉監視官、神官大麻氷上郡頒布員

速水清兵衛 篠山町二階町

雜貨文具販賣店 みなせ店前主
元町會議員

朝起會を作り健康運動に奔走して有名、現今は
多く大阪市に於ける二男の家に住居

經 歷 三六

草山村會議員、學務委員、部落惣代

長谷川定治

住所 多紀郡今田村今田河
新田一三八ノ二
明治十二年十一月廿三日生

今田村助役

經 歷

今田村役場書記

橋本金七郎

現住所 多紀郡草山村遠方
五
明治十三年八月二日生

草山村學務委員、農會評議員、氏子惣代

經 歷

草山村書記、村會議員、學務委員、農會惣代、
遠方部落惣代、信用購買販賣組合監事

花木太郎

篠山町西新町
本籍 兵庫縣武庫郡西郷町
新在家

兵庫縣立鳴鳴中學校教諭

國語、漢文科

大正十三年國學院大學高等師範部卒業

七年奈良縣立十津川中學文武館教諭

十四年現職へ

橋本庄太郎

現住所 多紀郡草山村遠方
六五九
明治十八年八月十日生

信用組合常務理事

波々伯部信次

住所 多紀郡八上村奥谷
本籍 同
明治十五年三月廿五日生

農業

村會議員、惣代

社寺總代、勳八等

丹羽正夫

住所 神奈川縣豆柄上郡川
村川七二四
本籍 多紀郡細村般若寺
明治九年五月三日生

醫術開業

略 歷

大阪慈惠病院醫學校、東京濟生學舎に聴講せし
ことありと雖も、多くは獨學自修

明治三十二年五月内務省醫術開業試験合格現在

の住所に開業

目下一般醫業に従事

神奈川縣醫師會理事、日本醫師會議員

現在は足柄上郡醫師會々長、神奈川縣醫師會理

事

一階宇吉

多紀郡城北村黒岡

農業 功七級

經 歷

日清日露兩戰役に従軍し金鷄勳章功七級を受く
村會議員、區長歴任

西井格

住所 多紀郡今田村市原八
本籍 同九
明治十七年四月十三日生

醫師

自宅開業

西尾新平 多紀郡大山村大山上

銘酒西尾正宗醸造元西尾本店主
元村長

元大山信用組合長

元篠山商工銀行及城西銀行重役
多紀郡西部の名門西尾家の家主で西尾精一氏の
嚴父にあたる。

西尾正宗の聲價を今日の如く高からしめた人。
又一面村の自治産業に貢献すると共に郡内の財
界に盡すところ多大である。

略 歴

明治四十五年鳳鳴義塾卒業、大正五年早稻田大
學商科卒業、嚴父新平氏のを継ぎ、西尾正
宗醸造事業を經營の傍ら郡内の自治産業、教育
事業に貢献す

昭和七年秋家業を再び嚴父新平氏に托し、渡滿
し大連市にて清酒醸造を大々的に經營すべく目
下準備中

西尾精一

住所 大連市紀伊町卅一
西尾支店

本籍 多紀郡大山村大山上

大連市西尾支店經營

元大山村長

元大山信用組合長、元大山青年團長

西尾極

住所 京都府天田郡福知山
町字堀
本籍 篠山町吳服町四十五
番屋敷

明治卅五年九月六日生

福知山區裁判所判事

法學士

略 歴

鳳鳴中學校、第五高等學校、京都帝國大學法學
部卒業

昭和二年四月司法官試補拜命、昭和三年歩兵第
卅七聯隊に幹部候補生として入營、三年除隊、
四年七月豫備判事に任官、昭和五年三月古川區
裁判所判事に轉補、六年現職に至る。

西尾盛藏

住所 多紀郡大山村北野新
田七九
本籍 同

明治十七年二月十四日生

米穀肥料山の芋木材商 新田區長

元家屋調査委員

經 歴

勳八等 明治三十七八年戰役に從軍す

前村會議員 前新田區長

西尾恒三郎

住所 古市村波賀野新田一
四七
本籍 同

明治十六年一月十二日生

吏員 勳八等功七級

經 歴

高等小學卒業後丹羽羽先生に漢學を學ぶ
日露戰役に從軍歸郷後古市村書記
商事會社に勤務、古市村書記
帝國在郷軍人古市村分會理事、公設消防組小頭
多紀郡釀酒組合古市支部役員
多紀郡功友會幹事

西垣富治

住所 福岡市森合石舌島坊
本籍 多紀郡大山村上村七
三一

明治廿六年十二月二日生

福島高等商業學校教授(經營經濟學會計學担任)

米澤高等工業學校講師(工業經營論講義)

商學士正六位

經 歴

明治四十四年四月兵庫縣立柏原中學校卒業

大正七年三月東京商科大學卒業

臺灣總督府留學生として福建省に赴く

大正十二年五月福島高等商業學校教授

大正十四年一月獨英米二ヶ年間文部省在外研究員を命ぜられ昭和二年六月歸朝
昭和六年二月文部省視學委員を命ぜらる



西川敏郎

氷上郡芦田村田井繩

柏原自動車株式會社取締役

芦田村會議員

芦田信用組合理事

芦田商工會長

經歷

四〇

若くして芦田村助役たり、家業として醬油醸造業を經營せり。大正五年頃より柏原町に氷上印刷會社を創設し、これが經營の傍ら地方新聞關西タイムスを發行、氷上言論界に活躍す。昭和五年引退、目下柏原自動車會社の經營と自村の自治産業に盡力す
過去四十年間自由黨以來政友係政治運動に盡す雄辯家として聞ゆ。壯年の頃芦田村に秋葉三尺防消火守護の永代講員千五百人を募集し、遠州秋葉山より三尺防靈分体を乞ひ安置し、秋葉殿を建築す。現在御講存續せり。之が創設計畫は全く氏の案に依る

西垣喜代次

住所 山形縣山形市自治講習所官舎
本籍 多紀郡大山村大山上
三〇八

明治三十年十一月二十日生

山形縣立講習所々長 農學士

經歷

鳳鳴義塾出身

第一高等學校卒業東京帝國大學農學部卒業

大正十四年以來山形縣自治講習所所長

西垣孝平

住所 多紀郡大山村大山上
本籍 同
明治廿七年二月十一日生

養蠶教師

西垣喜長

住所 多紀郡大山村大山上
本籍 同
明治卅三年一月二十日生

農

經歷

大正八年兵庫縣立明石農學校甲種別科修業

大正十三年兵庫縣立明石農事試驗場甲種練習生

入場合格

昭和三年四月大山村農會書記

昭和六年三月依願退職

西釋英賢

多紀郡後川村

後川村清蔭寺住職

兵庫縣方面委員 聯隊布教師

趣味 園芸

西川又一郎

住所 多紀郡岡野村大野二
本籍 同
明治九年三月廿九日生

農

經歷

明治三十六年衛生組合長、村會議員、岡野避病

舎改築委員、學務委員、矢代宇奥池改増築に當

り耕地整理組會議員及副組合長、大野畜産組合

長、大野區長

信用組合監事、第一回國勢調査員

農會總代、小作調停委員、第二回國勢調査員

岡野村助役歴任

西川 一正

住所 岡野村大野二八
本籍 同
明治三十八年一月十三日生

農
岡野村青年團長

經 歷

高等小學校卒業

西島宗太郎

四二
住所 多紀郡雲部村泉
本籍 同
明治廿六年六月廿四日生

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭

經 歷

大正二、三、二九池田師範學校二部卒業

大正一、二、八、一一中等學校体操科教員免許狀受

領

大正一、三、三、三一兵庫縣立鳳鳴中學校教諭に奉

職引續き現在に到る

西坂源三郎

篠山町河原町

醬油製造業 柏原中學校卒業

篠山町に於ける財界の大立者故西阪熊太郎氏の

長男に生る 昭和六年家督相續

西島勘之進

住所 雲部村泉

農業 勳八等功七級

經 歷

日露戰役に從軍し勳八等功七級に叙せらる

村會議員

西坂元三

篠山町河原町

百三十七銀行取締役

全福知山支店長

柏原中學卒業 早稻田大學商科卒業

西島善太郎

多紀郡雲部村泉

農業 勳六等功七級

村會議員 村養鶏組合長

經 歷

日露戰役に出征す、勳六等功七級に叙せらる

西村 照

住所 篠山町東新町八〇
本籍 西新町一六

縣立篠山高等女學校教諭

大正一、二、三、二七京都府立第一高等女學校家事

裁縫專攻科を卒業し兵庫縣立伊丹高等女學校教

諭を経て大正十四年現職へ

西田義芳

住所 多紀郡大山村追入一
本籍 大阪府三島郡三島村
戸伏
明治三十三年十月廿八日生

僧侶 大乘寺住職

大正十三年眞言宗京都東寺大學卒業

昭和二年大乘寺住職

西村源藏

住所 日置村曾地奥
同
明治九年二月十二日生

農業 村會議員 區長

經 歷

多紀郡茶業組合委員

西村重兵衛

住所 福住村下原山
本籍 同
明治十年一月三日生

農 村會議員

西村長太郎

住所 樺太鐵道株式會社樺
丹驛
篠山町西新町出身

樺太鐵道株式會社柵丹驛長

略 歴

明治廿一年藤山尋常科卒、二十四年仙臺高等科卒、廿八年東京共立中學卒業
爾來北海道炭礦鐵道株式會社、室蘭鐵道管理局
樺太廳鐵道事務所、同年豐原驛助役、榮驛長
昭和二年樺太鐵道株式會社に入社現今柵丹驛長
勤務

西野清太郎

住所 多紀郡城南村小枕
本籍 同

經 歴

城南村小枕、野中、谷山、吹耕地整理組合長
村會議員三期、銀行員、衛生組合長

西脇又吉

篠山町四町

本山葛の製造本舗

丹波名産 本山葛の製造販賣店主

四四

西山貫三郎

住所 多紀郡古市村古市
本籍 同 一六ノ二
明治廿九年一月廿五日生

經 歴

多紀郡自治協會書記
大正六年多紀郡書記、古市村役場收入役
郡役所書記就任、多紀郡自治協會の設立其書記

西山善太

住所 多紀郡今田村四斗谷
本籍 同

明治廿六年七月廿八日生

農

陸軍歩兵伍長

帝國在郷軍人會今田村分會長

今田村青年訓練所指導員

西山榮次

住所 氷上郡大路村松森
本籍 同

明治廿八年一月十二日生

農 收入役

經 歴

大正十四年收入役に就任現在に及ぶ

西山盛太郎

住所 氷上郡大路村松森

明治二十六年二月十一日生

農 公吏

經 歴

明治四十五年村役場に入り書記後辭し
柏原銀行に入社再び役場書記
大正十五年助役歴任す

西殿禎次郎

住所 多紀郡畑村奥畑
本籍 同

西本伊藏

住所 多紀郡大芋村大藤
同

農

村會議員 區長

四五

西羅兵一郎

住所 城北村大熊
本籍 同

農業 村農會惣代

篠山醬油株式會社專務

日本徵兵保險會社代理店

農業 區長 村會議員

經 歴

大正元年より畑村役場書記勤続十ヶ年間

部落惣代 畑村區長 信徒惣代

畑村農會役員、畑村青年團顧問、在郷軍人會支

部顧問、村會議員

西本莊逸

多紀郡雲部村本庄

農

青年團長

經 歷

鳳鳴義塾卒業

西羅岩太郎

住所 多紀郡城北村大庭

兵庫縣社會教育主事

多紀氷上駐在 高等官六等從七位

經 歷

御影師範學校卒業

多紀、氷上、武庫、川邊郡地方小學校長及視學

歷任

昭和七年六月勇退現職就任

堀内三郎

住所 東京府豐多摩郡和田堀町大字和泉一六六
本籍 兵庫縣多紀郡篠山町北新町一二四ノ一

明治二年十二月六日生

海軍中將

社団法人海軍協會副會長

從三位勳二等功四級

略 歷

明治十八年私立中學鳳鳴義塾卒業

全十九年海軍兵學校入學 全二十三年海軍兵學

校卒業 全廿七八年海軍少尉にて日清戰役に從



四六

ふ 全三十六年海軍少佐にて英國駐在 全三十七年四月歸朝日露戰役に從ふ

大正四年十二月海軍少將

全八年十二月海軍中將

大正八年九月練習船隊司令官にて地中海に航す

海軍省軍務局長、海軍大學校長

海軍軍令部次長、横須賀鎮守府司令長官等

大正十四年三月豫備役編入

堀池關藏

篠山町二階町五一

上二階町區長 吳服太物店

米多吳服店員より獨立して吳服質商を營む

堀本鶴之助

住所 多紀郡城南村北
本籍 同

明治九年五月六日生

農 寺惣代

經 歷

明治廿八年より茄栽培に從事 三十二年農事講

習卒業 堀本鴻農園の名稱

三十三年多紀郡農事研究會員、私立多紀郡勸業

會特別委員、農事研究會地方幹事

三十四年改良苗代獎勵委員囑託

第一回多紀郡農產物品評會出品米採集員

三十五年農事獎勵委員、苗代田害虫驅除臨時檢

査員

堀毛甚三郎

住所 多紀郡八上村池上一
本籍 同
明治十八年二月十六日生

八上村助役

經 歷

明治四十年御影師範學校卒業

多紀郡大山小學 校奉職 吹小學校長等歷任

大正十三年神田小學校長依願退職

大正十四年役場書記

四年一月助役

四七

三十五年城南村農友會長、多紀郡第一回稻田競作會審査員、農會地方幹事
第二回農産物品評會出品米採集員
三十七年第一區農事獎勵委員
大正八年大日本農業獎勵委員

堀口彌左衛門

住所 福住村福住
本籍 同
明治二年十一月一日生
吏員 收入役

法貴六郎

住所 廣嶋第五師團衛戍病院
院
本籍 篠山町山内町
陸軍々醫監
廣嶋第五師團衛戍病院長
明治四十二年福岡醫科大學卒業引續き同大學院に學ぶ更に陸軍々醫學校に學ぶ

學校卒業後陸軍々醫に任官各地に奉職
最近篠山衛戍病院長第四師團の軍醫部及び熊本第六師團の軍醫部長を経て昭和七年八月現職に榮轉

星野喜三郎

篠山町立町一一五
自轉車商
町會議員
篠山町信用組合監事
篠山町實業協會幹事會計係として町自治及實業界に盡瘁す



本庄

住所 東京市外中野町上ノ原八番地
出身地 多紀郡城南村真南條

軍參議官
陸軍中將

(前の關東軍司令官)
略 歴

昭和六七年に於ける日支事變に際し關東軍司令官として重責を一身に負ひ皇軍を統率して匪賊を討滅し以つて帝國の權益を確保し新滿洲國の建設に盡力する等赫々たる偉勳を立て新滿洲國

の父と稱ばれるに到り遂に史上に英名を残す人物となつた。昭和七年九月史上に例のない大歓迎を受けて帝都に凱旋した。本郷大將亡き今日我郷出身の陸軍軍人の第一人者となつた。我郷出身の軍人の第一人者たるのみならず今後我國に於て凱旋將軍として海の東郷元帥と並び稱せられることであらう。

將軍は明治八年頃多紀郡城南村真南條に出れた明治二十五年鳳鳴義塾の三年を終へ陸軍幼年學校に入學二十聯隊の士官候補生となり士官學校を出て明治三十七年陸軍大學に入り三十七年大尉で出征二十聯隊の中隊長として各地に轉戰勇名を馳せ沙河の大會戰に重傷を負ふて後送された。日露戰後陸軍參謀本部に入り部員となり支那班長となつて支那研究を續け支那各地に駐劄又多年張作霖の顧問となり北滿の天地に活躍して來たのである。そして陸軍に於ける支那通の第一人者となつた。北京の大使官附武官から昭和四年第十師團長となり昭和六年八月關東軍司

令官となり、間もなく事件勃發して大活躍となつたのである。シベリヤ出兵の時には第十一聯隊長として従軍し偉功をたてた偉大なる人格者である

本庄 彝

住所 福知山町内記五丁目
本籍 多紀郡城南村真南條

福知山惇明小學校長

經 歴

明治四十一年鳳鳴義塾卒業續いて京都師範の二部を卒業

京都府天田郡雲原小學校を振出しに京都府下で小學教育に従事す、拔擢されて久世郡視學となり、内外の稱讃を博し名視學と云はれた。轉じて船井郡視學、京都府視學を歴任して昭和初年頃福知山町惇明小學校長となる。天田郡教育界の牛耳を握り、本庄繁中將の從弟に當る。

本莊 由松

五〇
住所 城南村真南條中六七
本籍 全九
明治十四年八月十五日生

農

眞南條信用組合監事 農會總代 勳七等功七級

經 歴

明治三十七八年戰役に従軍 大正元年より城南村書記 同三年より篠山聯隊區司令部附 同九年より米穀検査員 同十四年迄多紀郡書記、大字總代 眞南條信用組合監事 農會總代 昭和五年五月より部落總代

本多熊太郎

篠山町北新町三十八

石材販賣及彫刻業

北新町區長

經 歴

篠山町衛生組合評議員、總代、國勢調査員、區長等を勤む

本田小次郎

雲部村本庄

農

信用組合監事

經 歴

御影師範學校卒業
小學校長歴任

細川和三郎

現住所 多紀郡草山村桑原
本籍 同 一四〇八ノ一
明治十年三月七日生

現在草山村會議員

細見 初藏

住所 氷上郡國領村
本籍 同

村信用組合理事 實業組合長
小賣商店經營

多年小學校教員奉職、退職後村會議員、區長、郡會議員、農會長等を勤む。銀行員たりし事もあり。

細見 春吉

住所 氷上郡國領村棚原一
本籍 同 七七番
明治九年六月十七日生

兵庫縣方面委員 兵庫縣清和會委員 兵庫縣清和會氷上郡支部幹事 氷上郡民警協會評議員 國領村青年會棚原支會顧問 國領村婦人會棚原支會顧問 國領村農村計畫樹立生活改善施設係

經 歴

明治三十一年十月四日船城尋常小學校准訓導、明治三十五年前山小學校訓導、同三十八年國領進修小學校に轉勤、同四十四年春日部小學校に奉職、大正六年三月三十一日武庫郡住吉小學校に奉職、大正十一年六月二十八日依願退職 昭和二年二月十一日中央融和事業協會長男爵平

沼田一郎閣下より表彰

昭和四年十月十日兵庫縣知事より表彰

大正三年三月三十一日氷上郡長より表彰

大正三年三月春日部教育會長より表彰

五二

部落惣代三回、學務委員、農會評議員、村長
明治三十七八年戰役當時村長として功多かりし
により勳八等を授く、義太夫の趣味あり。

細見兼松

住所 福岡縣福岡市
本籍 氷上郡大路村鹿場
明治十三年四月十八日生

福岡縣養蠶技手

嘗て同縣蠶業功勞者として特別拜謁仰付られし
ことあり。

細見義雄

現住所 多紀郡草山村本郷
本籍 同 八三一ノ一
明治三十年十二月七日生

草山村收入役大正十三年三月七日就任
兵庫縣東部乾繭利用組合總代

經 歴

京都府船井郡立乙種須知農學校卒業 養蠶教師
五ヶ年、草山村書記、同農會囑託書記兼會計主
任、同農會總代、多紀郡養蠶組合總代

細見環治

現住所 多紀郡草山村桑原
本籍 同 一三二六
明治六年六月十七日生

農會惣代、桑原部落惣代

草山村書記、收入役、助役、村會議員三期、桑原

細見金之助

現住所 多紀郡草山村本郷
本籍 同 一〇二
明治十四年一月一日生

草山村會議員 同林務委員 同信用組合理事

經 歴

草山村會議員當選二回 同本郷部落總代當選四
回 同農會總代當選一回 多紀郡部會議員當選

細見市太郎

現住所 多紀郡草山村本郷
本籍 同 八八〇ノ二
明治八年二月二日生

陪審委員

經 歴

草山村會議員 農會評議員 本郷部落總代

細見弘一

現住所 多紀郡草山村本郷
本籍 同 八四八
明治三十一年一月七日生

草山村信用購買販賣組合理事
本郷部落總代

經 歴

草山村立本郷尋常小學校卒業
船井郡立乙種須知農學校二學年修了
草山村本郷養蠶組合長

細見彌太郎

現住所 多紀郡草山村本郷
本籍 同 八三四
明治四年十月二十四日生

學務委員、農會評議員

經 歴

草山村書記、收入役、助役、村會議員、學務委
員四期、本郷部落總代四回、農會總代、信田購
買販賣組合理事

細見周吉

現住所 多紀郡草山村本郷
本籍 同 八三九
明治十五年五月八日生

草山村農會總代
農事改良獎勵委員
本郷養蠶組合長

經 歴

草山村會議員

五三

細見善吉

草山村會議員

現住所 多紀郡草山村遠方
本籍 三〇
慶應三年七月二十二日生

細見敏武

五四

住所 村雲村上篠見四
本籍 同
明治三十七年十二月二日生

細見伊三吉

住所 南河内村西木ノ部
住本 同

細見態吉

住所 雲部村佐貫谷
本籍 同

農 勳八等
村會議員、村農會長

經 歷

大正十四年以來村會議員
後備砲兵軍曹

農業 信用組合理事
村會議員、區長

細見宗太郎

住所 福住村幡路九十九番
本籍 同
明治十六年三月十六日生

細見仲治

住所 雲部村縣守
本籍 同

銀行員
中丹銀行取締役

農 勳八等
區長、家屋稅調查員

細見敬太郎

住所 福住村藤之木
本籍 同
明治二十三年七月廿六日生

農
村會議員 農會幹事

細見伸吉

住所 氷上郡大路村上三井
本籍 同
明治五年五月九日生

農
經 歷

村會議員三回、郡會議員、農會長、學務委員、
大正七年より同十一年迄村長歴任

細見主計

住所 福住村藤之木
本籍 同
明治九年六月十五日生

農
部落農會長 農會總代



堀内次雄

住所 臺北佐久間町一ノ一
篠山北新町出身

台灣中央研究所長（勅任官）
台灣總督府醫學専門學校長
（近く醫科大學になる）

赤十字社病院台灣支部醫長
台灣在郷軍人會々長 醫學博士

經 歷
全く立志傳中の人物といふべき人で小學校さへ
も卒業せず苦學力行種々の勤勞に従事しながら

五五

獨學して陸軍々醫となり遂に今日の地位を得るに至る。台灣に於ける醫事衛生の第一人者。明治四十一年頃論文を提出して醫學博士の學位を得。本郡最初の醫博である。軍醫より台北病院長を経て近く醫科大學となるべき台灣醫學專門學校長となり勤続十五六年の久しきに及ぶ。又赤十字社病院台灣支部醫長たり。台灣に於ける多紀郡人の代表的人物。温厚篤實にして學究的態度且つ人情に篤く台灣に行つた本郡人にして同氏の世話にならぬ者はないとの事。

堀内謙介

篠山町出身
住所 アメリカニューヨーク
ク總領事館

外交官
紐育總領事

經歷

明治卅六年鳳鳴義塾卒業
第一高等學校を経て東京帝國大學政治科卒業の

優秀才である。
大學在學中に外交官及び高等官の試験を受け秀な成績で合格し、學校卒業後外務省に入り外交官となり外務省、支那、英國、米國等の領事館の要職を経て、昭和七年春紐育總領事となる。氷上郡の芦田氏と並べて多紀郡外交官の第一人者たり。

本郷義夫

住所 東京市赤坂區青山北
町一丁目八番地
篠山町東新町

陸軍歩兵中佐
資源局事務官
同局企劃部第一課長
故本郷大將の令息

土岐

住所 氷上郡柏原町
本籍 和歌山縣那須郡山崎村

辯護士

明治四十二年京都帝國大學法科卒業
爾來各地にて司法官行政官たり。

土井義太郎

住所 多紀郡後川村上
本籍 同

農

經歷

村會議員、消防組頭、部落總代

土井廣太郎

住所 南河内村川北新田
本籍 同

村會議員

經歷

御影師範學校卒業
訓導郡内小學校校長歴任

土井儀左衛門

住所 多紀郡後川村上
本籍 同

農 勳七等

經歷

海軍下士

土井莊太郎

住所 多紀郡後川村上
本籍 同

農業 村會議員

戸倉誠司

住所 兵庫縣川邊郡川西町
鶴ノ莊
本籍 兵庫縣氷上郡沼貫村
小野

大阪東區安土町二丁目

大日本紡績株式會社絹糸課長

五七

東京牛込早稻田大學出身

經 歷

五八
自動車株式會社の取締役歴任す。
麻雀、寫眞、狩獵、野球

遠山喜久馬

住所 福住村福住
本籍 同
明治七年四月十二日生
農 村會議員
村農評議員 家屋稅調查員

藤松卯之助

住所 日置村八上新
本籍 同
自轉車商
自轉車創業明治四十年より今日に及ぶ。

藤稿彌甲

住所 大阪市北區曾根崎新
地三丁目一六
本籍 多紀郡村雲村下篠見
四五九
明治廿九年十月廿四日生
富士商會代表社員として自動車用品販賣

大石良五郎

住所 靜岡縣小笠郡堀之内
町
本籍 多紀郡篠山町西新町
八七
明治十八年九月廿六日生
教員 靜岡縣立小笠農學校長 正六位

大正四年鳳鳴義塾卒業 同年大倉恒吉本店勤務
同九年辭退爾來篠山町に於てオイル商經營、寶
塚有馬自動車株式會社、六甲山自動車株式會社
尼崎バス株式會社、寶播自動車株式會社、攝丹

明治四十三年より大正六年迄栃木縣立宇都宮農
學校教諭、大正七年より昭和三年迄靜岡縣立周
智農林學校長

昭和三年より靜岡縣立小笠農學校長
弓道、園芸 (趣味)

經 歷

大原晴雄

住所 東京市赤坂區表町三
丁目一六
本籍 同
明治十二年二月三日生
青山子爵家々令

鳳鳴義塾を経て東京早稻田大學に史學を修め明
治三十九年大觀公の御知遇を蒙り青山家に入り
爾來一切の望みを世に絶ち今日迄一心以て青山
家に奉仕さる。
趣味 繪畫、園藝、旅行

大江喜市郎

住所 氷上郡國領
本籍 同
明治廿八年より廿九年九月迄氷上郡但馬一円茶
業事務所代表、神戸の二府十二縣聯合茶業檢定
所へ出張
明治廿九年九月阪鶴鐵道創立事務所へ測量見習

大江理三郎

住所 四宮市千歲町二二
多紀大芋村三能出身
大阪朝日新聞計畫部長 (素天と號す)

として入社、三十一年阪鶴鐵道株式會社工事請負指定認許を受く、明治四十一年鐵道省指定請負認許を受く、四十五年帝國鐵道協會正會員に任命さる、大正二年兵庫縣土木建築請負組合丹波支部長に任命さる、大正三年福知山線鐵道省保線事務所管内指名請負組合會長に選定さる。

大江幾治郎

住所 多紀郡大芋村小原
本籍 同

農業 村曾議員 勳八等
經 歷

區長、日露戰役に出征す、勳八等

大澤 清

住所 千葉縣東葛飾郡船橋町九月市二三三四
本籍 氷上郡柏原町柏原六〇二

明治三十四年十一月二十九日生
株式會社入州銀行貸付係長

略 歴 六〇

氷上郡崇廣小學校卒業 慶應義塾商業學校修了
法政大學専門部卒業 株式會社入州銀行に入社
す 舊姓鈴木
法學得業士、貸付係長
趣味 讀書、音樂

大西亀次郎

住所 兵庫縣加古郡平岡村
多紀郡味間村出身
文久三年十一月七日生

大西病院經營
陸軍々醫總監 正四位勳二等功四級

略 歴

多紀郡味間村南東保右衛門の次男に生る、明治十三年大西家に養はる
明治十七年陸軍に身を投じ軍醫たる事三十餘年
大正四年十二月陸軍々醫總監となり依願豫備役となる。
郷土に在り晴耕雨讀老後餘生を養ふ。

趣味 茶道、圍棋、能樂



大西雅雄

住所 東京小石川區林町三六
多紀郡城南村野中出身

上智大學教授
日本女子高等學院教授
文部省英語教授研究所 文學士
經 歷

立志傳中の人である。明治四十五年篠山高等小學校卒業後三菱造船所の給仕に雇はれ日給二十

錢を得つ、夜學に通ひ英語を修得、英文印刷職工、基督教青年會給仕書記を勤め、其間小學校教員檢定試験を受け、大正六年春上京中學四年に編入され苦學力行して卒業、東京外國語學校を大正十一年卒業、これも自ら勤勞して得た金を學資としてやつてのけた。更に駒澤大學人文學科をも卒業して今日の地位を得た。
著書 「米語の研究」「英語發音明解」
「國語の發音」その他數種。

大西忠太郎

住所 多紀郡今田村市原一
本籍 同
明治四年六月五日生

農 經 歷

明治三十四年今田村農友會々長、村會議員四期
三十九年より學務委員十七ヶ年間、四十一年より米穀生産檢査員十五ヶ年間、四十四年郡會議員二期、大正十二年今田村長、大正十五年消防

組頭

明治四十一年郡農會長より篤農家として表彰
帝國農會總裁宮殿下より表彰、大日本興風會長
より表彰狀及記念品

大正二年地方有志より篤農家として表彰記念牌
建設せらる

大正十一年今田村長より學務委員勤績につき感
謝狀に銅盃壹個受く

大正十二年兵庫縣知事より米穀検査員十五年記
念として賞狀並に銀盃壹個を受く、縣農會長よ
り同上記念品と感謝狀並に置時計壹個を受く
大正十三年穀物検査所篠山出張所職員一同より
宣徳火鉢一個

大正十四年今田村助役より村會の決議を経て米
検査員在職中の勞を謝し感謝狀並に金一封受く
今田村消防第一部器具器械購入費に四百五十三
円寄附す
今田村消防組頭に推戴さる

大西柳次

住所 多紀郡今田村市原一
本籍 同
明治三十年十二月九日生

農業 大規模なる葉煙草栽培
帝國在郷軍人會今田村分會副長
今田村第一部消防小頭

大西甚吉

住所 多紀郡畑村管三五
本籍 同
明治二年十二月九日生

農 畑村信川組合理事 勳八等

明治廿七八年戰役に從軍す

明治卅七八年戰役に從軍し勳八等白色桐葉章及
年金百六十五円賜
畑村信用組合理事
矣照寺檀徒惣代歴任

大西政吉

住所 多紀郡畑村管三三一
本籍 同
明治九年七月一日生

農

木材薪商 部落區長、村會議員

經 歴

木材薪販賣を副業とす、多年部落惣代、區長、
畑村農會役員、全照寺檀徒惣代、氏子惣代、
村會議員二期當選

大西平太郎

住所 多紀郡今田村下立杭
本籍 同
明治三年六月廿九日生

農業兼陶器業

經 歴

前村會議員二期

大野繁藏

住所 雲部村縣守
本籍 同

農業 村會議員

經 歴

小學校訓導(檢定)
區長

大上助三郎

住所 多紀郡今田村下立杭
本籍 同
明治八年一月廿五日生

農 今田村長

經 歴

前有限責任立杭信用組合購買販賣組合長

前村會議員

前今田村助役

昭和二年今田村長

前今田村消防組頭

大前藤三郎

住所 多紀郡今田村黒石
本籍 同
弘化三年十月三日生

農

經歷

明治三十四年村會議員六ヶ年 大正六年今田村名譽職村長 大正十二年迄勤績 大正七年米價暴騰に際し金壹百円を今田村へ寄附 大正六年今田村役場費として金壹百円、同小學校基本財産として五拾円寄附 大正十一年今田村小學校職員住宅壹棟、山林七段歩、倉庫壹棟等を寄附せらる、今田村役場前に同氏の頌徳碑を今田村の名に於て建立せらる

六四

岡山縣技手事務長 土木技手道路技手河川監吏

經歷

明治廿九年關西工業塾卒業、阪鶴鐵道、神戸水道、内務省、朝鮮内部土木局、愛媛縣を経て大正九年岡山縣へ轉任、柔道劍道に秀で武術教師たり

大前嘉藏

住所 多紀郡今田村黒石
本籍 同

農 黒石耕地整理組合長

經歷

大正十二年二月黒石耕地整理組合長
今田村會議員八ヶ年間勤績

大前秀三郎

住所 岡山縣小田郡笠岡町
大字笠岡三ノ一
本籍 多紀郡大山村東河地
一〇

官吏

明治四年五月十六日生

港灣浚渫事務所長 同工事直營主任

大坪長三郎

現住所 多紀郡大山村大山
本籍 同 下八六
明治廿一年七月六日生

製材商 大山村會議員 林務委員

大坪亦次

住所 多紀郡大山村大山下
一、二〇一
本籍 同
明治三十四年三月五日生

海産物食料品並料理業

大阪陸軍糧秣支廠々員

正七位勳六等

出身校 明治四十五年七月大阪高等工業學校醸造科卒業

奥田樂々齋

篠山町河原町

彫刻家 又茶人歌人として聞ゆ

明治三十七八年戰役に出征各所に轉戦、凱旋後奈良の鐵裁翁の門に遊び彫刻道を納め篠山に於て殊に竹材の彫刻で名をなす、傍ら茶道歌道等風流に身を持す。かつて趣味雜誌趣味權を發行す、又各種の蒐集趣味を有す。

奥田勘太郎

住所 村雲村垂水六九番地
本籍 同

明治十二年十一月十六日生

農業

有權責任村雲銀行信用販賣購買組合長
大正十四年村會議員當選
昭和三年三月村雲村信用組合長に任職今日に及ぶ。

奥田重雄

住所 大阪陸軍糧秣支廠内
篠山町山内町出身

陸軍技手

奥田儀太郎

住所 福住村奥原山九六
本籍 同
明治十七年四月廿三日生

農

村會議員 區長 勳七等

六五

統計調査員

六六

盛大なる百貨店ランブアを経営の傍ら各種社會事業に應援盡力す。

奥山寂俊

住所 古市村油井一七八
本籍 同

明治廿七年四月廿九日生

教導職 天台宗妙樂寺住職

經 歴

滋賀縣滋賀郡坂本村比叡山中學入學卒業

天台宗教務廳書記

自詠歌五十首、雅號芳宜園又は百樹

奥山世民

住所 日置村八上新

本籍 同

齒科醫

奥山英一

篠山町魚屋町

大雜貨店ランブア店主

岡田元三郎

篠山町立町

篠山商工銀行取締役、株式會社魚市場取締役
篠山自動車會社社長、陸軍御用達岡田商店主
篠山町會議員、營業稅所得稅調查委員

經 歴

明治廿四年鳳中を出て同三月鐵道廳雇拜命、神戶運輸課勤務、廿六年退職、歸篠實業界に入る
明治卅二年神戸新聞創刊と同時に入社、大阪支局主任、卅三年一月退社歸篠支那漫遊をなす。
多年町會議員、篠山町高級助役等

岡田東三郎

篠山町二階町

旅館料理屋業 角源樓主

篠山土地建物株式會社取締役

岡田幸太郎

住所 南米ヘルメ國ウツラ

本籍 多紀郡大山村高倉一

九〇

明治三十年二月十日生

會社員

經 歴

大正二年二月渡米し公使館に奉職五ケ年、目下
レツテス農業株式會社就職會計事務を掌る。

岡田 清

篠山町立町

箆筒商

鳳鳴中學卒業

岡澤仙太郎

多紀郡北河内村打坂

信用組合長 學務委員

經 歴

明石農學校卒業 豫備陸軍歩兵中尉 村會議員
村長歴任

岡田善三郎

住所 南米ヘルメ國ウツラ

本籍 多紀郡大山村高倉一

九〇

明治廿六年六月廿八日生

寫真師

經 歴

大阪明星商業學校を苦學して卒業し大正九年十月より渡米、寫真業に従事す。

岡崎藤兵衛

多紀郡大芋村藤坂

六七

農 勳八等

學務委員 區長

經 歷

村會議員 日露戰役出征、勳八等に叙せらる。

六八

岡本又藏

住所 多紀郡畑村菅
本籍 同

農 勳八等

村區長、村會議員、衛生委員

經 歷

明治二十七八年戰役に從軍し戰役の功により金二十五円從軍記章を賜ふ、明治三十七八年戰役に從軍し勳八等又金壹百円賜ふ、部落惣代金照寺担惣代統計調査員害虫驅除豫防委員、農會役員、信用組合役員衛生委員、畑村林野統一委員、第一回國勢調査員、村會議員三回當選

岡本團次郎

住所 多紀郡古市村波買野
本籍 新田
明治二十年七月廿九日住

吳服雜貨商 各種新聞販賣 運送業

經 歷

明治四十年騎兵第四聯隊入隊上等兵歸休退營後大阪にセルロイド工業所設立、大正七年生瀬セルロイド株式會社專務取締役
大正十五年上海老北門永和實業四司葉鐘廷の顧問として渡支す、昭和三年國際通運株式會社古市代理店古市運送合資會社代表社員

岡澤元治郎

北河内村打坂

米穀検査員 設置當時より勤績す

經 歷

日露戰役に從軍し奮戰し遂に負傷し廢兵となる



小島良達

住所 多紀郡畑村般若寺
本籍 同
明治二十年五月廿七日生

醫學士 小島醫院經營

畑小學校醫

八幡製鐵所畑山砒石出張所囑託

經 歷

鳳鳴義塾卒業

明治四十四年大阪醫科大學卒業。卒業後歸郷して祖父の後を繼いで自宅開業今日に到る内科産婦人科を得意とす。多紀郡の衛生事業に貢献殘

岡澤つるゑ

住所 北河内村打坂

北河内村婦人會長

經 歷

柏原高等女學校卒業

岡澤仙太郎氏妻女

鬼塚信彦

住所 岡野村東岡屋二二六
本籍 神戸市神戸山通三丁目三三

文學士

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭

昭和六、三、三一東京帝國大學文學部西洋歴史學

六九

科卒業 昭和六、八、三一現職へ

小島 彰

住所 多紀郡八上村小多田
本籍 同 一四〇七
明治九年一月二十一日生

農業 八上村長 農會長 信用組合長

経歴

大正二年五月八上村長當選

大正三年四月全農會長當選

明治三十九年より信用組合長

多紀郡自治協理理事、多紀郡農會評議員、多紀郡畜産組合評議員、兵庫縣信用組合聯合會多紀郡代議員、兵庫縣清和會多紀郡委員
普通教育に關する成績顯著なりとし本縣知事より表彰せらる

明治三十七八年戰役の功に依り銀杯一個下賜

大正四年大禮紀念章、日本赤十字社特別社員

書畫、陶器の蒐集家

小島 龜助

住所 多紀郡畑村般若寺
本籍 同

農業

経歴

味淋、焼酎の製造販賣をなし

謡曲の師匠をなし

部落惣代、衛生組合長、村社氏子惣代、正覺寺担徒惣代、村會議員數回、全村收入役次に畑村助役に擧がる

銅像が正覺寺の境内に建設されて居るのを見て氏の人格を知るに足る

小島 眞治

住所 中華民國山東省張店
中山路五十二號
瑞源洋行
多紀郡雲部村泉(出身)

明治二十二年六月廿日生

瑞源洋行經營

紡績用原綿及搾油用綿實、石炭

其他天産物輸出商

略歴

大正三年戰役の時青島軍司令部砲兵附となり大正十年末迄勤務後陸軍省の命により大正十一年渡支豫で計畫せし黄河下流域に米棉栽培を奨勵することとなり單身奥地に乘込み十二年日本棉花より招かれて山東省張店に出張所を建築同事業を繼續、十五年夏豫備役編入、昭和三年棉花工場を創立し獨立して瑞源綿行を經營して今日に到る

小島 勇吉

住所 多紀郡畑村般若寺
本籍 同

菓子製造販賣業

消防小頭

経歴

菓子製造販賣業とす

大正十年消防小頭となり多紀郡消防協會長畑村

七〇

消防組頭より表彰状を受く

小島 房藏

住所 多紀郡八上村小多田
本籍 同
安政五年八月八日生

農業 方面委員 勳七等

経歴

明治十二年山林原野調査委員並に組合委員

同 十五年小田多村長、全學務委員、奥谷村戸長代理

同 十六年多紀郡糯ヶ坪戸長全學務委員

同 二十二年村長及村會職務取扱及村共同事務主任

同 二十二年五月村長當選三十年迄就職三十四年より大正二年迄村長

同 二十二年より村會議員當選五回

同 三十七年より大正七年迄村農會長

同 三十二年より三十六年迄郡會議員全參事會員郡農會評議員、信用組合監事

七一

小島松二郎 住所 多紀郡八上村小多田 本籍 同 明治二年三月二十三日生 農業

小島茂一郎 住所 多紀郡八上村小多田 本籍 同 明治元年一月二十五日生 農業 小多田道路改修委員

小島鶴藏 住所 多紀郡畑村般若寺 本籍 同 農業 區長、部落農會長

大正元年より部落議員、部落惣代、全農會長 氏子惣代、担徒惣代 第一回國勢調査員 畑區長に歴任す

小島幾藏 住所 多紀郡畑村般若寺 本籍 同 明治四年七月十七日生 漆器指物商 衛生組合長般若寺委員

一、漆器指物業をなし、部落議員、農會役員、氏子惣代、担徒惣代、衛生委員等歴任す

小田敏夫 住所 水上郡大路村下三井 本籍 同 明治八年五月一日生 農 助役

米穀検査員として勤続昭和四年辭す 村會議員たること三回、助役たり

小倉喜三郎 住所 多紀郡後川村上 本籍 同 小學校教員正八位 後川村在郷軍人分會長

鳳鳴義塾卒業 後備歩兵少尉 經 歴

小倉槌之助 住所 多紀郡後川村上 本籍 同 農 丹南銀行取締役

部落惣代、村會議員、農會長 經 歴

小倉金藏 住所 多紀郡後川村上 材木商 丹南銀行監査役

七二

經 歴 村會議員、部落惣代、後川村助役 趣味 園碁

小野太三郎 住所 多紀郡八上村小多田 本籍 同 明治十六年生 農業 農會惣代、社寺惣代 熱心なる農事研究家

尾河順太郎 住所 中華民國青島齊東路 二號 東京市外世田谷町下 北澤四一二番地 篠山町西新町出身 財團法人同仁會青島醫院內科醫長 醫學博士

篠山町西新町に明治卅年出生、第三高等學校を 經 歴

七三

經て大正十年東京帝國大學醫學部卒業病理學教室に勤務す、大正十二年より附屬醫院稻田内科に於て内科學を研究す
昭和四年東京帝大より醫學博士の學位を授與せらる

同年讀賣新聞社診療所長を兼任す。昭和六年二月同仁會青島醫院内科醫長として赴任す

尾嶋増太郎 住所 古市村牛ヶ瀬
米穀商 精米業

輿石義則 住所 篠山町南新町一三ノ三
本籍 山梨縣中巨摩郡瀧王村一八三四

兵庫縣立篠山高等女學校教諭
大正五、四、一六紐育エレクトロリカルスクール卒業 爾後三ヶ年間に在米

大正八、一、三〇英佛を視察歸朝
一、六、一〇縣立鳳鳴中學校教諭
昭和五、九、三〇現職へ

雄山秀澄 城北村黒岡七五
縣社春日社宮司

柏原中學校卒業後漢學を學ぶ
明治三六、二二、小學校教員免許狀
明治三八、神戸市及西之宮市小學校奉職
明治四〇、篠山町春日神社々司、岡野村諏訪神社、社掌兼任 城南野中村社々掌兼任

荻阪巖比古 住所 金澤市松本町三一ノ一
本籍 多紀郡大山村大山上 七二八
明治十七年七月四日生

第九師團經理部長 一等主計正大佐
正六位勳四等佛ビ

柏原中學卒業陸軍經理學校生徒科及高等學生科卒業、明治四十年十二月任官陸軍三等主計、昭和二年七月二等主計正、歩兵第六十聯隊附、歩兵第十二聯隊附、關東憲兵隊附、第十一師團經理部員、歩兵第四十聯隊附、陸地測量部附、參謀本部御用職野砲兵第一聯隊附第六師團經理部員、浦潮派遣軍副官部附、兼全經理部員近衛歩兵第四聯隊附近衛師團經理部員、陸軍會計經理規定整理委員、教育總監部附、第二十師團經理部員第十六師團經理部員第十六師團留守主計正として留守部長。夫人は高知縣人、長女は府立高女、次女、長男の三子あり
昭和七年 上海事變に出動

荻阪 晋 住所 多紀郡大山村大山上 七二八
本籍 同
明治六年十二月廿九日生
神職 縣社神田神社社司 正七位

明治十九年大山小學校中等科卒業鳳鳴義塾入學二十三年中途退學母校教鞭をとる。三十二年逕信省鐵道作業局奉職 三十九年臨時軍用鐵道監督府鐵道局に歷任し大正十五年退官す
全年六月大山村神田神社社司となる
朝鮮鐵道社友會相談部員、社宅委員、鐵道購買組合世話役、全汽車課共同貯金組合會々長
大正元年韓國合併記念章、全五年大禮記念章
全十四年正七位に叙せらる

荻野 惠 住所 篠山町西町
本籍 氷上郡吉見村梶原
兵庫縣立鳳鳴中學校教諭 七五

從六位 高等官五等待遇

經 歷

明治三九、三二、四、第四臨時教員養成所卒業、
中等學校英語科教員免許狀受領
高知一中、福井小濱、兵庫洲本の各中學を経て
大正九年鳳中教諭となる

萩野益三郎

住所 高知市小高坂
本籍 氷上郡昔田村

高知地方裁判所部長判事

經 歷

兵庫縣立柏原中學卒業 大正十一年東京帝國大
學獨乙法科卒業 神戸地方裁判所判事を経て現
職 正六位

萩野忠事

七六
住所 山形縣飽海郡酒田町
今町三丁目八八
本籍 多紀郡大山村大山宮
六九

明治三十年十二月廿二日生

教諭 酒田商業學校教諭

高等官七等待遇 從七位

大正六年御影師範卒業、全校附屬小學校訓導

大正十二年明石小學校訓導並明石高等女學校囑
託

全十四年七月試驗檢定により中等學校教員數學
科免許狀下附十四年十二月明石高等女學校教諭
十五年七月山形縣酒田商業學校教諭、昭和二年
十月公立實業學校教諭任ぜらる、庭球に精進す

萩野萬助

住所 南河内村高屋
本籍 同

農 村會議員

趣味 生花師匠

若宮正隆

篠山町立町
明治六年十一月十五日生

尊法寺住職

軍隊布教師、清和會委員、釋放保護會理事、

小年保護司、方面委員 從七位

明治四一、一、篠山町尊寶寺入寺 全一、六、篠山

歩兵第七十聯隊布教師 大正一三司法省より少

年保護司事務囑託 一五、縣聯合保護會多紀支

部理事 一五、兵庫縣清和會地方委員 昭和三、

八、方面委員

趣味として茶儀、謡曲、園芸

和田周二郎

住所 大阪東郵便局
本籍 氷上郡大路村工三井
庄

通信書記 從七位

經 歷

新舞鶴郵便局、高麗橋郵便局を経て大阪東郵便
局主事たり

若狹辨助

住所 多紀郡味間村西古佐
本籍 同 九三三
明治七年二月六日生

農業 味間村農會惣代

經 歷

前西古佐信用組合理事

渡瀬忠夫

住所 城南村眞南條中四〇
本籍 同
明治八年二月四日生

現狀 兵庫縣立鳳鳴中學校書記

經 歷

元小學校教員

川崎繁太郎

住所 北河内村下板井
本籍 同

農業 村會議員

川口市五郎

住所 篠山町北新町五四ノ二
本籍 和歌山縣日高郡比井山寄村字阿尾五〇九

兵庫縣立篠山高等女學校教諭、兼鳳鳴中學校教諭(音樂科)

大正六、三、三一、兵庫縣御影師範學校卒業
中等學校教員檢定試驗(音樂科)に合格
昭和三、一〇、一〇、現任へ

龜山幸助

住所 篠山町西新町
岡山縣吉備郡下倉村

巡查部長 篠山警察署詰保安衛生主任
昭和四年八月神戸三之宮署より轉任

金井哲雄

七八
住所 篠山町乾新町四五
本籍 同
明治七年九月二七日生

社會事業に奉仕

明治二九、三兵庫縣神戸師範學校卒業

篠山小學校訓導、大芋小學校長、城南小學校長

味間小學校長、大山小學校長、城北小學校長

畑小學校長

大正一一、二〇、一一 兵庫縣立篠山高等女學校

教諭

昭和七年三月勇退閑地に就く

桂 龍三郎

氷上郡國領村檮原
安政六年七月一日生

村農會長

兵庫縣生絲販賣組合理事

經歷

漢學を修む。小學校教員奉職。學務委員、戸長

河津啓太郎

住所 氷上郡國領村國領
本籍 同

柏原高等女學校教諭(教務主任)

略 歷

明治四十四年三月私立中學鳳鳴義塾(篠山)卒業

大正四年三月東京高等師範學校國語、漢文科卒業

業 それより福島縣立磐城高等女學校、柏原中

學校を經へ大正十四年五月現職へ

桂 龜之助

住所 福住村福住
本籍 同
明治十年二月十三日生

米穀商

村會議員 村農會幹事

桂 重太郎

住所 福住村福住
本籍 同
明治十二年三月八日生

農

區長 部落農會長 農會惣代

河津律造

住所 氷上郡國領村
本籍 同

醫院主

村醫、校醫

明治十九年神戸醫學學校卒業

大阪に於て病院に勤務

明治廿一年歸郷開業

片山重一

住所 鹿兒島縣加世田町
本籍 兵庫縣水上郡柏原町
鹿兒島縣立加世田高等女學校々長
東京文理科大学卒業 正六位

片岡正明

篠山町西新町
本籍 大阪南河内郡黒山村
兵庫縣農林技手 多紀郡畜産組合技手
大正九年三月大阪府立農學校卒業 兵庫家畜病院に診療に従事 香川縣小豆郡畜産組合技手等を經へ現任へ

梶原佐兵衛

住所 多紀郡大芋村市野々
農業 區長
村會議員

梶原力三郎

八〇
住所 岡野村西岡屋四二
本籍 同
明治七年二月七日生
農業
農會惣代、區長、衛生組合長
村會議員

梶原傳吉

住所 岡野村西岡屋甲五
本籍 同
明治十八年一月二十二日生
農 麴製造販賣
消防組小頭、村會議員

梶村元之助

住所 多紀郡八上村澁谷
本籍 同
明治十一年三月一日生
農業
村會議員、農會惣代、部落農會長、担徒總代

經 歴

澁谷惣代二十餘年間勤績、村會議員四期、担徒總代、農會總代、京都西本願寺多紀氷上十三日講世話掛拜命五期
勤績多紀郡佛教婦人會幹事

檜尾實三

住所 多紀郡畑村火打岩五
本籍 同
農業 苗木商
畑村青年團長多紀郡青年團理事
經 歴
先代より苗木栽培販賣を業とす
昭和三年畑村青年團長就任

加賀野萬三郎

住所 多紀郡味間村東
本籍 同
吹六〇三
明治二十九年一月二十二日生

農業

富國徵兵保險外交員

經 歴

大正四年歩兵第七十聯隊入隊 歩兵軍曹退營
大正十四年帝國在郷軍人會味間村分會長就任

垣内勘藏

住所 多紀郡村雲村小立一
本籍 同 七四
明治五年二月八日生
改良農具製造並に修繕
大正八年創業
一等賞金牌受領垣内式回轉稻拔機
二等賞銀牌受領垣内式縫織機
三等賞銅牌受領垣内式製繩機

特 徴

就中縫織機の如きは其構造簡單にして尤も堅牢を旨とし且つ精功にして其能率は實に他を超越す

垣内藤四郎

住所 大阪市北區曾根崎上
一丁目三一番地
本籍 氷上郡和村草部六
十二番屋敷

明治十年四月生

八二
住所 台北市榮町二ノ二六
本籍 篠山町吳服町米甚

大正十一年以來
醫療酸素製藥業、壓縮瓦斯容器輸入商を營む
大阪府醫療酸素同業組合長
日本ホキツスル株式會社取締役

經歷

私立大阪商業學校卒業(明治二十八年)
丸丹製絲所(生絲製造)設立(明治三十五年失敗
上阪)

砂糖問屋香野商店に入り四十一年迄全國廻商
上海に共立商行を起し綿糸布貿易に従事す
四十五年歸朝、左の事業に従事し今日に至る
大日本滿鐵株式會社取締役、日本材木工業株式
會社取締役、亞細亞興業株式會社監查役、大阪
ゴム株式會社取締役、鶴橋ゴム株式會社取締役
等
趣味 書畫を好み特に南畫に深き趣味を覺ゆ

柏田喜代藏

合資會社昭和商會(有價証券、現物賣買)主
合資會社辻臺灣物産問屋顧問(三男辻兵壽郎經
營)多紀郡福住村安口荒木本家に生る

京都府船井郡にて小學教員拜命、西宮辰馬本家
商店に入店、明治廿八年柏田家に入り料理業經
營、四十五年渡臺し臺北市辰馬商會に入る 大
正五年退社現業へ
趣味 俳句

昭和二年芭蕉本廟より宗匠號拜受、立杭
號六華園昇月

河南英太郎

住所 多紀郡味間村東吹
本籍 同
明治元年生

農業 元村長

經歷

鳳鳴義塾中途退學、明治法律學校、第三高等中
學校醫學部藥學を學びしが家事の都合中途退學
明治三十一年金融株式會社入社、取締役常務取
締役、明治三十九年味間村助役、村會議員、多
紀郡會議員、四十五年郡教育會理事、郡參事會
員、此間氏は耕地整理の事に腐心し大正元年吹
耕時期成會を起し幾多の支障を排し之を決行し
會計事務を進んで擔任し大正五年組合長となる
味間吹兩校合併に關しても其の必要を認め萬難
を廢し、村會に建議案等提出する事數回建築の
議定まるや建築委員長となる、基督教の長老、
夫人は有名なる河南こみつ女史
特に吹耕地整理事業の大功勞者である



河南多三郎

住所 多紀郡味間村東吹
本籍 同
明治五年七月生

地方自治産業上の功勞者

經歷

河南信雄

住所 篠山町
篠山町農會會長 篠山町第六區長 從七位

經歷

明治三十六年十二月より大正六年一月迄多紀郡役所書記勤務

大正六年四月名譽職篠山町助役

十二年四月辞任

大正十三年四月より十五年六月迄青山家に勤務

篠山町六區長 農會長

從七位勳八等

趣味は 謡曲、園芸

兵庫縣穀物生産検査員、農業調査員

八四

河南盛治

住所 多紀郡味間村味間南
本籍 同

明治十九年四月十五日生

農業 出雲大社教味間教會所長

勳七等

經 歴

元海軍入隊す應用電氣が最も得意

河南善二

住所 多紀郡味間村綱掛一
本籍 同

一五
明治二十三年十月廿五日生

農業

吹水利組合會議員兼常設委員、部落惣代、信用組合事務員

經 歴

吹耕地整理組合會議員三期、吹水利組合會議員兼常設委員、部落惣代、農商務統計調査員、本村會議員、國勢調査員、土地貸賃價格調査員

河南三造

住所 多紀郡味間村東吹八
本籍 同

二五
明治十四年六月二十二日生

農業 勳七等

部落衛生副組長

經 歴

陸軍歩兵曹長、日露戰役に從軍勳七等に叙せらる 麹製澁販賣 農會惣代一期

河南宗十郎

住所 多紀郡味間村綱掛一
本籍 同

二四
明治二年十二月十五日生

農業 勳七等

農會惣代、部落農會長、衛生組長

吹水利組合委員

經 歴

多紀郡南河内村西木之部に生る、細見性
明治二十七八年戰役に出征歩兵伍長となり勳八等
明治三十七八年戰役に從軍し歩兵軍曹となり勳七等
部落農會長、村農會惣代、衛生組長、信用組合評定委員酒造杜氏として二十年勤続す

前村會議員二期 氏子總代、部落總代

河南定雄

住所 露山町北新町六拾壹
番地
本籍 味間村大澤四百八十
一番地ノ一

略 歴

明治三十五年六月一日海軍水兵に志願
大正二年海軍一等兵曹にて滿期解隊
明治三十七八年戰役の功に依り勳八等に叙せられ大正元年功に依り勳七等に叙せらるなほ大山滿洲軍司令官及乃木司令官より感謝狀授與さる
大正二年より辨天銀行員、味間村收入役、辨天耕地整理組合主任等を務め其後篠山信用組合書記に就任昭和七年七月辞任

河南増太郎

住所 多紀郡味間村東古佐
本籍 同

三〇
明治六年五月十六日生

農業 部落惣代 味間信用組合理事

吹水利組合常設委員

河南恒太郎

住所 多紀郡味間村
本籍 同

明治六年生

八五

部落總代、信用組合理事、吹水利組合常設委員
農業 勳八等

經 歷

日清征臺日露戰役に従軍し勳八等を授く、大正二年より吹耕地組合會議員、吹水利組合常設委員、部落總代、村會議員一期

八六
酒造杜氏（大正三年より今日迄）部落酒造研究會長

河南一馬

住所 多紀郡味間村味間南
本籍 同 八四六
明治卅三年二十四日生

司法行政 代書
事務所能山町二階町に置く

河南達藏

住所 多紀郡味間村東古佐
本籍 同 七三
明治十四年一月二十二日生

農業 村會議員

河合秀雄

住所 篠山町北新町

齒科醫 兵庫縣齒科醫師會代議員

經 歷

大正四年京都齒科醫學校卒業後國定試驗合格
大正六年東京齒科醫學校専門學校第一回醫師講習及研究

大正七年四月開業 かつて丹波齒科醫師會副會長たり兵庫縣齒科醫師會代議員

趣味 乗馬、カメラ

河南保雄

住所 多紀郡味間村西古佐
本籍 同 四〇三ノ一
明治二十四年一月十四日生

農業 西古佐中年會長

經 歷

河井直之

住所 篠山町西新町六三

明治二八、一、篠山區裁判所雇書記
全三五、私立鳳鳴義塾書記
大正一〇、兵庫縣立篠山高等女學校書記

笠井操

住所 福住村藤木
本籍 同

明治卅六年三月十三日生

農業

經 歷

千代田生命保險相互會社
篠東申込事務取扱所
統計調査員

河井こう

住所 古市村波賀野
本籍 篠山町東新町
元治元年十二月四日生

裁縫の指南

笠井喜太郎

住所 福住村小野奥谷二六
本籍 同 一
明治廿一年十二月廿一日生

農業

經 歷

前村會議員

河本眞一

住所 多紀郡大芋村福井
本籍 同

農業 村會議員

笠井安次郎

住所 福住村藤ノ木

農業 醸酒業組合副支部長

八七

神田 俊治

住所 多紀郡今田村木津
本籍 同

教員

經歷

大正九年兵庫縣立姫路師範學校卒業
全 美糞郡中吉川小學校、全郡北谷小學校
大正十三年多紀郡城南村小學校

横山 六郎

八八
住所 篠山町西新町八七
本籍 長野縣小縣郡川邊村
字神畑七六

兵庫縣立篠山高等女學校長
明治三十九年三月東京高等師範學校英語專修科
卒業

新潟柏崎中學、長野縣上田中學、天理中學、
廣島中學、兵庫伊丹中學等を経て大正十五年篠
山高女へ 正六位

横尾 頼介

住所 氷上郡和田村小新屋
本籍 同

和田村會議員及學務委員
氷上郡養蠶組合顧問
公議外として(和田村有限責任信用組合監事及
相談役、兵庫縣東部乾繭組合理事)

經歷

氷上郡事務員 氷上郡林業巡迴教師 和田村名

譽職助役 和田村名譽職村長 氷上郡會議員及

名譽職參事會員 氷上郡養蠶同業組合組長 和

田村農會長 氷上郡農會代議員及評議員 兵庫

縣農會代議員

吉武 三次郎

篠山町西新町
本籍 福島縣京都郡西犀川
村字崎山

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭
高等官六等待遇

明治二九、六、一〇中等學校生理科教員免許狀受

領

全三四、二、一九、中等學校倫理科教員免許狀受

領

全三四、八、一四、私立中學鳳鳴義塾教員に囑託

大正九年四、一、兵庫縣立鳳鳴中學校教諭に

正七位にして文筆に長じ特に國文漢侍を能くす

三十餘年間一貫して鳳鳴中學に教鞭を執り人格

高潔にしてわれ等の吉武先生として郷黨の間に

敬慕さる。

三十餘年間未だ一度も聲色を變じたることない

といふ偉人である。

吉竹 覺次郎

住所 多紀郡大山村北野新
本籍 同 田六四
明治廿九年十一月三十日生

鍼力商

吉田 大謙

住所 氷上郡和田村
本籍 和田村梶

明治卅年六月より右村世足寺に住職

大正十二年より十五年迄曹洞宗兵庫縣官内布教

師の命を得る

昭和五年八月より今に兵庫縣方面委員に任ぜら

る

吉田平之助

篠山町東新町

金融業

京都同志社大學に學ぶ
神戸市「ニツケル商會」、神戸市居留地
米國貿易會社
大阪日本運送株式會社等に勤務
大正十三年歸郷、昭和七年山陽無盡會社の篠山出張所相談役たり

吉本槌之助

九〇

住所 古市村油井九
本籍 同

明治廿二年七月十一日生

經 歴

兵庫縣農林技手 兵庫縣穀物移出検査員
輻重兵上等兵 大正七年兵庫縣穀物輸出検査員
兵庫縣米穀検査所篠山驛輸出派出所在勤、大山驛、古市驛詰所兼務、相野驛輸出検査員詰所勤務、帝國在郷軍人團分會長、古市村分會會計事務を執る

吉田順三

住所 多紀郡八上村
本籍 多可郡中町牧町一七

明治卅八年二月九日生

經 歴

昭和七年六月氷上郡和田村へ轉任
兵庫縣立農學校卒業
兵庫縣農林技手兼八上村農會技手拜命
兵庫縣農林技手兼八上村農會技手

吉川鶴太郎

住所 篠山町上二階町
本籍 同

明治十四年五月廿二日生

經 歴

時計商 吉川尙美堂店主
篠山町第十三區長
明治卅年時計商開業（歩兵第七十聯隊設置以來御用商人たり）篠山町衛生委員、篠山町會議員

總代、區長等を務む
圍碁、撞球に長ず

余田文男

住所 武庫郡今津町水波一
八六

本籍 氷上郡前山村上竹田

經 歴

毎日通信社編輯部勤務
自宅は天田郡細見木炭組合販賣所
養鶏園を經營す
大正八年篠山歩兵第七十聯隊退營後大阪三越に入社し大正十二年三越大阪支店退社後現在の毎日通信社編輯部勤務
後備陸軍歩兵軍曹



田中耕太郎

住所 東京府和田堀字松ノ
木一三四五
篠山町出身

海軍中將

略 歴

鳳鳴義塾第一回卒業生
堀内三郎中將と共に多紀郡出身海軍軍人の大立物である。中將は帝政時代の露細亞通として陸軍の田中義一大將と同様海軍部内に重きをなしてゐた。露細亞大使館附武官として露都に在勤すること多年同中將の海軍生活の大部分は殆ど

露細亞生活でなされたとも云へる。

同中將の露細亞大使館附武官時代に陸軍では田中義一大將がゐて一緒だったので田中大將と大いに好かつたと云はれる。日清戦争時代には軍艦扶桑に乗込んで従軍した。日露戦争時代には軍令部にて大いに劃策貢献し露細亞通を發揮した。日露戦争後東郷元帥の副官たりしことがある。中將の海軍生活は艦上生活よりも陸軍勤務が多い。露細亞帝政の没落と共に豫備役となつた。温厚篤實の君子人で讀書家である。郷土史の研究に興味を有してゐられて貴重な文献を發表されたことがある。

田中保太郎

住所 神戸商業大學内
本籍 神戸市淡路区上澤通六丁目六番地

神戸商業大學教授
パチエラー オブファイロソフイ (シカゴ大學)
ドクトル オブロー (全)

略歴

九二

大正八年神戸高等商業學校卒業
全年九月文部省在外研究員を命ぜられ米、英獨諸國に留學 大正十四年二月歸朝
大正十二年神戸高等商業學校教授、昭和四年神戸商業大學教授に任ぜられる

田中 敬

住所 仙臺市花畑四七
本籍 多紀郡北河内村下板井
明治十三年五月五日生

東北帝國大學司書官青葉女學院講師
(孝道文學其他の著書あり) 正六位勳六等

略歴

明治三十三年春より三十六年まで小學校教員
明治三十六年九月上京す 三十七年東洋大學入學 同四十一年文檢試験檢定合格 同四十二年三月東洋大學卒業 故文學博士澤柳政太郎氏の助手として著作編纂に従事すること二年餘

同四十四年東北大學圖書館に勤務 同年「孝道文學」を公刊す

大正七年「圖書館教育」を著す十二年東北帝國大學司書官に任ぜらる 十三年圖書學概論を著す昭和七年「粘葉考(蝴蝶裝と大和綴との研究)」を著す
青葉女學院講師

田中全三郎

住所 京都市中京區鞍屋町三條南八
本籍 氷上郡幸世村

日本美術院理事
立命館大學理事
京都市會議員

経歴

立命館大學卒業
大阪朝日新聞記者
大阪朝報社重役

田中正男

住所 大阪府中河内郡長瀬村大字北蛇草二六六ノ一
本籍 藤山町山内町八二
明治卅六年七月十一日生

大阪朝日新聞社社會部記者
略歴

大正十一年三月鳳鳴中學校卒業
同十年四月東京外國語學校西班牙語部貿易科卒業 全年八月植民地事情視察のため南米へ渡航翌年歸朝
昭和二年三月大阪朝日新聞社入社 昭和四年經濟視察を主目的として北米及び全南米へ渡航翌年五月歸朝
趣味 旅行 スポーツ 講演等

田中孝夫

篠山町乾新町五八
本籍 岡山縣英田郡栗井村
○巢無番地

兵庫縣立篠山高等女學校教諭
圖書科

九三

昭和三、三、東京美術學校西洋畫科卒業
全 四、六、廿九篠山高女へ

田中仁之助

篠山町吳服町

鍼灸醫

陸軍豫備中尉 從七位勳六等

田中八郎

篠山町二階町

田中商會店主和洋酒、食料品、罐詰、砂糖、味噌商
篠山名物半月煎餅製造發賣元

大阪朝日新聞篠山販賣店主

多紀朝日會々長

攝丹新聞同業組合幹事

三丹朝日會幹事

田中松藏

九四

住所 多紀郡城南村栗栖野
本籍 同

元治元年四月二十日生

農

灘酒造家岸田忠右衛門精米部主任

明治三十四年村會議員四期 全三十七年學務委

員二期 全四十一年篠山町外四ヶ村學校組合會

議員 全四十一年城南小學校增築豫備委員 全

四十四年多紀郡農會評議員 全三十六年衛生組

合長 全四十三年部落總代大正十三年迄

昭和三年兵庫縣方面委員

田中源三郎

住所 多紀郡味間村味間奥

本籍 同 一三三一

明治六年二月一日生

農業

元味間村學務委員

經歷

前村會議員、部落總代、氏子總代、

丹波製茶組合監事、狩獵に趣味をもつ

田中貞次郎

住所 多紀郡畑村火打岩六

本籍 同 一〇

明治廿四年六月十六日生

農業 杜氏

經歷

明治四十四年より大正元年畑村青年團幹事

明治四十四年より大正十二年迄消防小頭部落よ

り表彰狀及感謝狀を受く

大正八年御影本嘉納に酒造杜氏として勤続す

其間西宮清酒鑑定會に於て毎八ヶ年間連續入賞

表彰を受く

田中儀太郎

住所 多紀郡今田村上小野

本籍 同 原

明治十九年十二月十七日生

農

今田村消防第六部小頭

經歷

大正九年四月帝國在郷軍人今田村分會長

大正十五年退く

陸軍歩兵曹長

田中文苗

住所 住吉區旭町二丁目一

本籍 兵庫縣氷上郡幸世村

氷上

松林寺住職

法務を代僧にまかせ自ら動物愛に心をそゝぐ

經歷

明治四十二年四月八日大阪市天王寺區六萬休町

田中仁助

住所 多紀郡今田村上小野
本籍 同
明治廿七年七月二日生

農
勳八等 陸軍上等計手

經 歷

經理部員として朝鮮諸隊に於て勤務す

九六

終生の趣味として後半生を繪畫の研究に従事し有志の肖像畫を揮毫す、全氏の絹地に描ける墨繪の肖像などは阪神地方に於て頗る好評なり其他和歌新体詩などに趣味を有し中央歌文會々友として歌道に精進す號を樺堂と稱す

田村仙之助

(樺堂)

篠山町南新町八四

畫家

經 歷

明治三十一年四月小學校教員として篠山小學校奉職以來縣下教職に在ること二十七ヶ年昭和三年三月職を辞す後専ら繪畫の研究に志す大阪新燈美術展に「古城跡の秋」全六月全院東京展に「田舎の町はづれ」昭和四年五月全院大阪展に「丘の上より」等入選す

田村金助

住所 村雲村下篠見七六二
本籍 同
明治十七年一月七日生

農 勳八等

大正二年四月村會議員當選

全 八年十月米穀生産検査員就職

全 十三年七月村雲村消防組々頭就職

田塩準之介

篠山町東新町

多紀郡教育界の功勞者

趣味 庭球

田口正敬

氷上郡新井村北山
明治廿二年十二月十八日生

氷上郡新井村長、氷上郡畜産組合副組合長

氷上郡青年團長、郡農會評議員、縣消防協會代

議員、縣養蠶同業組合聯合會評議員

經 歷

明治四十一年大阪府立農學校獸醫科卒業

大正二年鹿兒島高等農林學校農學科卒業

同三年福井縣立農林學校教諭

同八年姫路商業學校教諭に轉任

同十一年五月豊岡中學校教諭轉任

同十四年退職 新井村長就任現在に及ぶ

田塩東平

住所 岸和田市別所町六九
本籍 篠山町東新町

大阪府立岸和田高等女學校教諭

略 歷

鳳鳴中學校卒業

昭和二年東京高等師範學校卒業

同年幹部候補生として歩兵第八聯隊入營

昭和三年大阪府立岸和田中學校教諭

六年任陸軍歩兵少尉叙正八位

同年大阪府立岸和田高等女學校教諭に任ぜらる

田尻秀雄

多紀郡南河内西谷

田尻醫院主(自宅開業)

九七

有名なる眼科専門醫院
金澤醫學専門學校卒業

高木富三郎

篠山町東新町
本籍 京都府宇治郡山科村
字音羽方四〇

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭心得

經 歷

明治四十五年三月二十八日東京外國語學校卒業
大正七年八月十日陸軍通譯を命第十二師團司令
部附

同十一年九月二十四日撤兵退職

同十二年九月三十日兵庫縣立鳳鳴中學校教諭心得
得從七位勳六等

九八

明治四十三年私立鳳鳴義塾卒業
大正三年株式會社村雲銀行員に就職
昭和三年一月合併に依り株式會社中丹銀行と改
稱したるにより同行員取締役たり

高木芳松

住所 多紀郡八上村八上下
本籍 同
明治五年一月十六日生

農業 材會議員

經 歷

村會議員、農事に熱心共進會及品評會等に再三
褒狀を受く

谷垣富藏

住所 多紀郡味間村東吹
本籍 同
明治二十四年七月廿三日生

農業

經 歷

明治四十五年御影師範學校卒業、多紀郡味間尋

高橋信一郎

住所 多紀郡村雲村向井二
本籍 同
明治二十五年九月七日生

中丹銀行取締役

常高等小學校訓導岡野、神田、古市小學校を經
て大正十二年岡野小學校長、武庫郡良元小學校
に轉じ昭和四年退職歸農 死亡



谷垣武次郎

篠山町西町三六

篠山信用組合專務理事 酒造業
兵庫縣方面委員、多紀郡釀造組合長
兵庫縣酒造組合聯合會代議員
町會議員、篠山町第十七區長

經 歷

明治三十七年大阪高等工業學校釀造科卒業
稅務監督局技師、大藏省釀造試驗場技師たり
此間京都府、滋賀縣技師兼任し京都市技師囑託
たり
歸郷現在に至る 從六位

谷垣正藏

住所 多紀郡味間村東吹
本籍 同
明治六年九月五日生

農業 吹普通水利組合常設委員

味間村信用組合監事

經 歷

吹耕地整理組合會議員、部落惣代、信用組合監
事、衛生組合長、部落農會長

谷口喜市郎

住所 日置村曾地口
本籍 同

九九

木材商

經歷

木材商經營二十有五年 製材業七ヶ年

谷後重吉

住所 多紀郡味間村味間北

本籍 同 九七三ノ一

明治二十年四月廿七日生

經歷

農業、醬油釀造業

大正三年より醬油釀造業をなし大正七年及十一年日本醸造協會近畿支部酒醬油品評會に於て二等銅牌賞與、大正十五年國產愛用普及大共進會に一等賞金牌を受く

木材商製材商經營 陸軍豫備曹長

谷舖市松

住所 福住村箱谷

本籍 同

安政六年十二月廿四日生

農

村會議員 統計調査員 農會幹事

谷舖善藏

住所 福住村箱谷

本籍 同

明治十三年十月廿日生

農 區長 村會議員

統計調査員 農會幹事

谷口昇之進

篠山町南新町

明治二十年十月二日生

經歷

明治三十九年三月鳳鳴義塾卒業

同四十年より四十三年三月まで魚崎小學校訓導

谷川實三松

住所 多紀郡八上村糖ヶ坪

本籍 同

明治二十一年一月十九日生

經歷

木材製材商 動八等

同四十四年三月台灣總督府國語學校卒業

台灣公學校教諭 斗六、嘉義歴任

大正四年九月台灣公學校 梅例親、大莆林、茶

公店歴任街庄協議會議員

大正十二年四月退官歸郷

元大阪電氣化學研究所主事

趣味・園芸 保險事業の研究

借地借家調停委員、大正十三年岡野村助役
同十五年村長、岡野村農會長、郡農會代議員歴任

谷田又藏

住所 岡野村西岡屋甲四八

本籍 同 九

明治十三年四月十六日生

農 岡野村消防小頭

經歷

村會議員

谷田富藏

住所 多紀郡岡野村西岡屋

本籍 同 甲一八

明治二年一月廿五日生

經歷

農 元村長

明治二十一年第四師團野砲兵第四聯隊入營
同二十七、八年戰役に從軍曹砲兵二等軍曹に昇
進同二十九年より多紀郡釀酒業組合常任委員及
議員、講習會委員、四十二年より多紀郡釀酒業
組合副會長、岡野村會議員、大正八年多紀郡會
議員、郡參事會補充員、第一回國勢調査員

谷田孝雄

住所 岡野村西岡屋甲四八

本籍 同 四

明治三十四年三月六日生

村會議員

安田生命保險會社外務員

經歷

元稅務署書記

谷田太吉

住所 多紀郡雲部村縣守
本籍 同

農業
經 歴
村會議員、區長、助役

谷掛彌之助

住所 多紀郡草山村桑原一
本籍 三四
明治十六年十一月三日生

村會議員、農會評議員、惣代、信用組合監事
經 歴
草山村會議員、部落惣代、農會惣代
趣味 獵遊

谷掛八十八

住所 多紀郡草山村桑原九
本籍 九七
明治十一年九月二十三日生

草山村助役、農會長、信用組合理理事組合長、多紀郡農會代議員、草山桑苗生産組合長、養蠶組合長、兵庫縣方面委員

經 歴
兵庫縣立蠶業學校別科卒業、草山村桑原部落惣代、農會副會長、多紀郡養蠶同業組合評議員、信用組合監事、學務委員、村會議員、國勢調査委員

谷掛喜郎

住所 多紀郡草山村桑原九
本籍 九七
明治三十九年七月二十日生

草山村書記、草山村青年團長、農事研究副會長、多紀郡青年團評議員、希望社多紀郡聯盟草山村委員、桑原養蠶組合長、昭和七年群馬縣新田郡藪塚町役に就任

經 歴
兵庫縣立蠶業學校卒業、農商務統計調査員、草山村農會書記囑託、農業調査員

谷掛義三郎

住所 多紀郡草山村桑原六
本籍 三
明治九年八月一日生

明治三十七、八年日露の戦役に従軍し勳八等功七級を授く、村會議員二期、農會惣代をなす

團野源三郎

篠山町立町

百三十七銀行専務取締役
酒造業（銘酒八重垣醸造元）

經 歴
京都市立商業學校卒業、明治三十三年株式會社百三十七銀行に入行以來今日に至るまで勤続百三十七銀行専務取締役たり
町會議員 篠山町財源調査委員
借地借家法調停委員
大正五年家督を相続す

谷掛安次郎

住所 多紀郡草山村桑原一
本籍 七〇一
明治二年三月五日生

草山村會議員、學務委員六期、部落惣代をなし今は隱居す

谷後和喜藏

住所 多紀郡味間村味間北
本籍 一〇〇四
明治五年三月十九日生

農業
味間北惣代、同衛生組合長
多紀郡茶業組合委員
經 歴

團野記平治

住所 多紀郡城南村小枕
本籍 同

明治十年一月九日生

經 歴

明治二十九年大阪市立商業學校卒業 同三十六年
篠山町河原町衛生委員
同三十七年氷上郡竹田村に居を移し竹田郵便局長
同四十三年篠山兵營前郵便局長
城南村收入役

棚橋 務

住所 大阪府下岸和田市野田町五一七八
本籍 多紀郡篠山町南新町

明治廿一年十月廿六日生

大阪府泉南郡貝塚町大字海塚
日本浴巾株式會社工務部長

經 歴

明治四十年五月より株式會社川崎造船所
鐘ヶ淵紡績株式會社兵庫支社、金華紡績株式會

一〇四

社岐阜工場、日本メリヤス株式會社枚方支店、
芦森製綱所に歴任し人事係たり
大正十四年一月より日本浴巾株式會社工務部長たり

種子田 弘

住所 篠山町東新町八
本籍 鹿兒島縣川邊郡川邊町平山町二八七一

兵庫縣立篠山高等女學校教諭

明治四十四年三月熊本高等工業學校採鑛冶金學科卒業 大正五年迄台灣基隆に於て
同十年迄朝鮮京城に於て斯道に従事し
同十一年四月三十一日篠山高女へ 從七位

太田與市

住所 東京市板橋區板橋四ツ又九一四
本籍 氷上郡柏原町下町五十七番屋敷
電話板橋二四五番

書籍商兼印刷業

經 歴

太期平太郎

住所 岡野村四濱谷五六
本籍 同

明治二十六年十月二日生

農 村會議員

經 歴

鳳鳴義塾卒業 西濱谷區長
濱谷耕地整理組合長 在郷軍人分會長

太野垣禧一

住所 東京牛込矢來四
本籍 多紀郡雲部村佐貴谷

高砂ゴム工業株式會社 工場長

經 歴

大正三年早大商科卒業
大正五年高砂系人社以來現在に及ぶ
多年通稱を貴三と稱して來たが近年本名に復歸通稱を廢す

太治誠一

住所 多紀郡今田村下小野
本籍 原一〇九
明治廿年三月十五日生

農業

經 歴

村會議員一期
大字區長五ヶ年
農會惣代一期

一〇五

太野垣林藏

住所 雲部村春日江
本籍 同

戶長、助役
經 歷

一〇六

農 村會議員
區 長
勳八等

竹中雄三

明治三十四年十二月四日生

住所 大阪府泉北郡濱寺町
本籍 大阪府泉南郡淡輪村
八四〇

太野垣長次郎

住所 多紀郡雲部村春日江
本籍 同

農 業 勳七等功七級
助役、信用組合監事

經 歷

區長、村會議員

會社員
株式會社竹中商店及株式會社昭和倉庫
多紀郡大山村西尾新平三男、鳳鳴中學卒業
第三高等學校、京都帝國大學經濟學部卒業
豫備役陸軍二等主計

太野垣保太郎

住所 雲部村春日江
本籍 同

農 業 村西部耕地整理組合長

竹內誠一

住所 岡野村東濱谷九五
本籍 同
明治二十九年十一月五日生

農 在郷軍人分會長
村會議員 濱谷耕地整理組合長
經 歷

高等小學校卒業 岡野村青年團長

東濱谷區長

農 業 區長

經 歷

高等小學校卒業 衛生組合長

竹內宗一

住所 岡野村西濱谷一
本籍 同
明治三十一年六月廿一日生

農 業 區長
信用組合理事 消防組小頭 農會惣代

經 歷

高等小學校卒業

竹本萬次郎

住所 多紀郡城北村野間
本籍 同

役場書記 農會惣代

經 歷

城北村役場書記、元郡書記

郡役所廢止後篠山町役場書記

竹內定吉

住所 岡野村東濱谷六四
本籍 同
明治十二年十二月十一日生

農 區長

丹後孫次郎

住所 多紀郡八上村小多田
本籍 同
明治十年四月二日生

農 業 村會議員

小多田部落惣代 社寺惣代

竹田秀三郎

住所 岡野村大野一一二
本籍 同
明治十八年六月十四日生

一〇七

園田定太郎

住所 多紀郡味間村味間新
本籍 同
慶應三年十月四日生
從六位

經 歴

明治十四年四月より十七年七月まで公立後山中
學校在學、十七年上京、十八年四月東京高等師
範學校に入學す、同廿二年三月卒業、同廿二年
沖繩縣師範學校教諭拜命、同廿六年三月愛知縣
師範學校教諭に轉任、同卅一年十二月石川縣師範
學校教諭(奏任)に轉任、卅一年三月福島縣師
範學校、同卅三年福岡師範學校校長拜命、三ヶ年
間同縣女子師範學校校長兼務す
三十九年二月岡山縣師範學校校長
同四十一年六月私立鳳鳴義塾長、大正九年退職
此間多紀郡立高等女學校長事務取扱囑託さる
大正九年大阪中央電信局補習教育部主任及大阪
府立今宮中學校教授を囑託せらる
昭和六年歸省す

一〇八

園田元助

住所 廣島縣廣島市千田町
本籍 三丁目八七七
多紀郡味間村味間新
明治九年七月十八日生

廣島高等師範學校講師步兵大佐
帝國在郷軍人會第五師管聯合支部副長並に廣島
市聯合分會副長

略 歴

明治二十八年四月六日鳳鳴義塾卒業、同塾第一
世寄宿舎々監、同年十二月一日士官候補生とし
て大阪歩兵第二十聯隊補充大隊へ入隊、二十九
年士官學校入校、同三十年士官學校卒業、同三
十一年任步兵少尉第二十聯隊附、累進、大正十
二年三月任陸軍歩兵大佐豫備役
明治三十二年、三年台灣に在りて土匪討伐に従事
同三十九年より四十年に亘り滿洲守備に任じ、
四十一年六月より四十三年七月迄北清駐屯軍に
勤務、日露戰役並に大正四年、乃至九年戰役に
従事す、正五位勳三等に叙し瑞寶章、大正四年
乃至九年戰役の功により勳三等旭日中綬章並に

水上郡學校 醫會副會長

園田 毅

住所 廣島市千田町三丁目
本籍 多紀郡味間村味間新
明治三十八年二月六日生

陸軍士官學校附砲兵中尉從七位

經 歴

大正六年四月廣島縣立廣島中學校へ入學、翌年
九月廣島陸軍地方幼年學校へ入學、十年三月同
校卒業、陸軍士官學校豫科入學、十二年三月同
豫科卒業、士官候補生、十二年十月士官學校本
科入學、十四年七月同校卒業、同年十月少尉任
官、野砲兵第五聯隊附、昭和三年十月任陸軍砲
兵中尉、從七位、昭和六年三月陸軍士官學校附

園田光徹

住所 水上郡久下村池谷一
本籍 多紀郡味間村味間新
二七三

明治二十七年十一月十三日生

醫師 醫院經營 醫學士

經 歴

大正二年三月私立鳳鳴義塾卒業、同年大阪府立
高等醫學學校豫科入學、大正六年大阪醫科大學豫
科卒業、大正十年三月大阪醫科大學全科卒業
同年四月大阪醫科大學副手兼同大學附屬病院內
科醫員拜命
大正十一年五月依願解職爾來現住所にて開業す
内科、小兒科、産科
上久下、久下兩村の村醫校醫

園田勉次郎

住所 東京府荏原郡荏原
町戸越千二百六十
四番地
本籍 兵庫縣多紀郡味間
村味間新二百七十二番地

一〇九

金千貳百五拾円を下賜せらる、又明治四十二年
清國皇帝陛下より三等第一雙龍寶星を受領し及
佩用する事を允許せらる日記を明治二十八年十
二月以來實施す

逓信省工務局勤務
逓信技師從五位勳四等功五級

經 歴

明治二十五年三月私立鳳鳴義塾第三年級卒業
明治二十五年七月東京郵便電信學校入學、同二
十七年六月卒業逓信省へ就任
明治二十八年十二月一年志願兵として工兵第四
大隊へ入隊、工兵少尉として日露戰役に従軍
明治三十九年二月凱旋後再び逓信省へ就任今日
に至る
大正九年より同十年に亘り歐米各國へ出張

園田 龟藏

住所 兵庫縣武庫郡御影町
本籍 本縣納本邸
兵庫縣多紀郡大山村
追入一九三

慶應三年一月二十六日生

町村制發布以前大山村大山新外十六ヶ村の戸長
明治二十二年以來大山村役場奉職、明治二十六
年七月より二十九年八月まで村長として就職



一一〇

園田 半次郎

住所 多紀郡大山村園田分
本籍 同
明治十七年四月十二日生

農業 元校長

明治三十九年鳳鳴義塾卒業、多紀郡古市小學校
但馬朝來郡山口村、美方郡、京都府船井郡竹野
村、加佐郡河守町、南桑田郡中川村等の小學校
訓導をなし退職、農に従事後再び小學校教師を
なす、元大山村會議員、元京都府加佐郡朝來村
少年赤十字副團長、北海道有珠郡壯警村達觀内
小學校長、青年團長

園田 宇吉

住所 多紀郡大山村大山下
本籍 同
四八三ノ二
明治二十年四月五日生

帽子原料製造、山の芋商

農 區長 學務委員

經 歴

多紀郡書記、首席書記
篠山百三十七銀行福知山支店勤務

辻 奎次郎

住所 城北村熊谷
本籍 同

農業 村會議員、學務委員
信用組合理事、方面委員

經 歴

大正十年以來村會議員 方面委員、區長
信用組合書記、同監事、日勤理事、米穀検査員

坪内 助次郎

住所 岡野村矢代五五九ノ
本籍 同
明治四年十月二十日生

土田 卯之助

住所 多紀郡大山村園田分
本籍 同
一七〇
明治元年二月六日生

醬油醸造業、大山村農會會長、村會議員
學務委員、家屋稅調査員、大山村養蠶實行組合
長

經 歴

明治二十二年三月兵庫縣尋常師範學校卒業、
二十八年十月まで氷上高等小學校訓導奉職、
二十八年十月大山村尋常高等小學校訓導兼校長
奉職、三十二年一旦辭職、園田稔の財産管理、
三十四年再び同校長拜命、四十二年職を辭す、
四十五年より醬油醸造業を開始す

一一一

辻 房

篠山町北新町

十芳園茶舗主
明治三十八年九月より昭和六年一月迄小學校先生奉職 裁縫其他諸藝に通ず

事科卒業
同年五月十日篠山高女へ

常陰重五郎

篠山町西新町

本籍 兵庫縣神崎郡中寺村
篠山高等女學校教諭(教頭)
大正四年東京高師數學科專修科卒業
愛知縣立第三中學、神戸一中、高知第二中學教諭を経て現任へ 從五位



辻 百太郎

住所 城南村真南條上
本籍 同

明治十年十一月五日生

會社員 村會議員 勳八等
經 歷
金融株式會社支配人 辨天銀行取締役

椿 春子

住所 篠山町西新町二四

本籍 三重縣宇治山田市今在家町二四

兵庫縣立篠山高等女學校教諭
昭和五年三月二十四日奈良女子高等師學範校家

常深誠道

住所 多紀郡城南村

本籍 美囊郡口吉川村保木

教員 經 歷
大正十年御影師範學校卒業
同年より昭和五年迄美囊郡勤務
昭和四年城南小學校分教場
昭和七年伊丹小學校へ轉任

農業 村會議員 衛生組合長 農會惣代
部落農會長 社寺惣代

經 歷

村會議員五期、衛生組合長二十五ヶ年、社寺惣代二十ヶ年間、八上信用組合、苗代管理、縣品評會、兒童教育獎勵、産米改良優良等につき各表彰を受く、國勢調査員、統計調査員

津田正次郎

住所 日置村

本籍 同

明治十年五月二十六日生

農 經 歷
中丹銀行辻支店長、常務取締役 死亡

鶴田幸夫

住所 氷上郡吉見村上田

本籍 同

明治卅八年八月十四日生

柏原崇廣小學校訓導

經 歷

大正六年三月二十八日御影師範學校卒業、同年四月有馬郡有馬町小學校訓導を振出しに同校に七ヶ年在勤後名摺、高平の各校に轉勤、大正十四年氷上郡に轉じ昭和二年以後現職にあり

塚松養藏

住所 多紀郡八上村松之本
本籍 同

明治二年六月十二日生



中村直藏

篠山町北新町

多紀郡青年團長
陸軍少將

經歴

明治二十八年鳳鳴義塾卒業
明治三十一年六月歩兵少尉、明治三十七、八年
戰役には歩兵第二十聯隊中隊長として出征、功
五級金鷄勳章を賜はる、旋後陸軍士官學校教
官、村松歩兵第三十聯隊大隊長、教育總監部副

一一四

官、松江歩兵第六十三聯隊附中佐、大阪聯隊區
司令官、旭川歩兵第二十聯隊長を経て大正十四
年五月陸軍少將に任じ待命豫備になる
從四位勳三等功五級
趣味 魚釣、園藝、園碁

中代豊治郎

住所 篠山町北新町

本籍 多紀郡城北村黒岡一
六三

明治廿年一月二十九日生
歩兵中佐篠山七十聯隊附

略歴

明治四十年三月中學鳳鳴義塾卒業 同十二月士
官候補生として歩兵第八聯隊入隊 同四十一年
十二月士官學校入校 同四十三年五月士官學校
卒業 同十二月陸軍歩兵少尉 大正二年十二月
任中尉 同九年四月任大尉 同十二年八月第四
師團副官 昭和二年五月少佐歩兵第五十七聯隊
附 同四年八月第一師團副官 昭和七年八月現

職

中井雄逸

住所 多紀郡今田村下立杭

本籍 同
明治二十一年十二月二日生

醫師 自宅開業

經歴

前村會議員

中井仙太郎

住所 南河内村川西

本籍 同

農 村會議員

中井助藏

住所 多紀郡草山村本郷六

本籍 同
明治十一年十月二十二日生

草山村會議員、農事改良獎勵委員
酒屋杜氏

經歴

草山村書記、村會議員、農會惣代

中井幸助

住所 多紀郡今田村下立杭

本籍 同

材木諸建築請負 陶器卸問屋

中島貫一

篠山町山内町

醫術開業 内科、レントゲン科

豫備二等軍醫正(中佐)

明治三十七年大阪醫科大學卒業

明治三十八年陸軍出仕 日露戰役に出征

鳥取四十聯隊、第四師團軍醫部員を経て大正六
年三等軍醫正に進級、大正八年篠山衛戍病院長
となり大正十一年二等軍醫正に進級、善通寺衛
戍病院長となり大正十三年再び篠山衛戍病院長

一一五

となり十五年退官豫備役となる
園基は初段に近し、俳句、釣を好む

中島 俊康

住所 多紀郡南河内村川北
大門寺
本籍 兵庫縣朝來郡竹田町
明治十七年九月廿六日生

住職 大門寺

浄土宗兵庫縣教區丹波組長

知恩院多紀西門末總代 勳八等

經 歴

明治二十八年十月十七日亡母の菩提を弔はんが爲に但馬朝來郡竹田町法樹寺中島宥觀師につき剃髮得度す

明治三十八年三月浄土宗立東山中學卒業後直ちに鳥取歩兵第四十聯隊補充大隊入隊、七月滿洲に出征す、翌三十九年三月復員下令歸郷す
全年四月宗教大學に入學、四十年五月十八日師跡法樹寺住職、四十一年九月任台灣開教區開教使台北在留を命ぜらる、法樹寺退職宗大休學す

四十二年布教所に轉任す、大正元年九月暴風の爲倒壊せる堂宇を再建、大正三年更に花蓮港布教所に轉任、全五年台灣總督府より千三百坪の地所拂下を受け堂宇を創建寺號分稱す、六年辭任歸省、七年五月南河内村川北大門寺住職となる

中島 宥道

住所 多紀郡加村般若寺
本籍 兵庫縣朝來郡竹田町
明治十五年九月廿五日生

浄土宗 僧侶布教師 畑村般若寺正覺寺住職

經 歴

寺門經營すること二十有餘年
總本山門末總代

中川 周三

篠山町河原町

齒科醫開業

經 歴

鳳鳴義塾卒業 東京齒科醫科專門學校卒業

中山 正二

篠山町西新町二

多紀郡圖書館主任
元多紀郡小學校教員
文筆に長じ且つ郷土史研究家として知らる

中馬 雲平

住所 大芋村藤阪
本籍 同

農業
信用組合理事 勳八等
經 歴
助役

中野 竹次郎

篠山町吳服町

愛汗理髮館主

多紀郡雲部村春日江出身
明治三十七年年廿七歳にして志を立て、渡米、昭和三年に至る迄二十數年間在米、北米の各地又はメキシコ等に活動巨萬の富を得て歸朝した渡米成功者である
最初は香港に居りそれよりサクラメント、フレズノ、バイセリヤ、ハンフォード、ロサンデルス等に轉々し、最後にメキシコのチハナに居た始めの十年間は菓物、罐詰製造會社の日本人部の監督、後の十年間は理髮業經營
歸朝後篠山町に居を定め理想的の理髮館を經營しつゝあり、雲部村にも宏壯な邸宅を有す
勤勞を趣味として飽食暖衣せず自ら第一線に立つて仕事をするとこゝろ模範とするに足るところである

中野武雄

住所 日置村辻九〇九
本籍 同

明治卅八年二月十六日生

公吏 兵庫縣農林技手

經歷

三田農林學校卒業 小學校教員 兵庫縣穀物検査員囑託 味間村農林技手

中野芳尾

住所 多紀郡畑村大上
本籍 同

會社事務員

經歷

昭和元年より畑村信用組合事務員
昭和五年退社

中野津太郎

住所 多紀郡畑村大上
本籍 同

明治九年十一月二十日生

農業 村會議員 區長

經歷

大正六年部落農會會長 大正十年畜牛會長 部落評議員 農事獎勵委員 畑村第三區衛生組合長 帝國在郷軍人會大上後援會長 村會議員 區長

中野治郎助

住所 日置村辻九〇九
本籍 同

明治十四年五月六日生

農 學務委員

中道於菟次

住所 多紀郡大山村大山新
本籍 同

明治十一年十月九日生

從七位勳六等
三等郵便局長 陸軍二等主計
學務委員

經歷

明治二十九年三月大阪市立大阪商業學校卒業
日露戰役に際し第十師團架橋隊に屬し出征
四十四年大山郵便局長
元郡會議員 元村會議員

元郡會議員 元村會議員

中道養之助

住所 大阪府三島郡吹田町
本籍 多紀郡大山村大山新
八五七
八七ノ一

明治七年十一月三十日生

會社員

從七位勳六等功五級

經歷

明治二十七年一年志願兵として第四師團歩兵第二十聯隊入營

明治三十七、八年戰役豫備役陸軍歩兵中尉として從軍、明治三十八年三月十一日奉天戰に負傷歸還

大正元年九月大山村に就任
大正五年滿期退任

中田源三郎

住所 多紀郡南河内村西坂
本籍 同

明治二十年四月四日生

農

經歷

大正二年四月村會議員當選 大正九年國勢調査員拜命 大正十年農事改良獎勵員を囑託せらる 大正十年より昭和三年迄區長就任 大正十二年より兵庫縣清和會委員及同多紀郡支部商議員となる 大正十四年一月より昭和二年迄南河内信用組合監事 大正十四年國勢調査委員を拜命 昭和四年農務調査員拜命 南河内村會議員、部落農會會長、兵庫縣清和會委員及同多紀郡支部商議員、南河内信用組合評議員、産業統計調査員、衛生組會長

中山記一郎

住所 大阪市浪速區藏前町
出身 多紀郡畑村

南海電鐵營業部勤務

一一九

中山常藏

住所 多紀郡草山村本郷四本籍 七七
明治八年八月十一日生

草山村林務委員、農會評議員、同惣代、農事改良獎勵委員、信用組合理事

經歷

草山村會議員二期 全農會惣代二期 全本郷部落惣代

1110
出取引株式會社支配人(官選)に就任
昭和三年八月末退職歸郷靜養中

中澤勝藏

篠山町西町四〇
安政四年九月二日生

吳服太物商

經歷

篠山町會議員 氏子惣代等
名譽職四十三年間、隱退後園藝趣味

中澤晋作

住所 多紀郡大山村新田町本籍 同ノ田二九
明治十七年六月廿六日生

正八位勳六等

經歷

東洋協會専門學校出身
大正三、四年戰役陸軍通譯(奏任待遇)として
從軍、李村軍政署、青島守備軍司令部に在勤、
大正七年株式會社日華協會、信公司濟南支店長
兼調査課主任、大正九年退職大正十五年青島輸

中澤基勝

篠山町西町

吳服店

篠山町青年團長(第一回)

篠山町收入役 篠山新聞社理事 多紀郡青年團理事
大正の末年頃より昭和六年頃まで神戸地方に遊び昭和六年末歸篠

中澤伊兵衛

住所 兵庫縣武庫郡本庄村本籍 深江ノ多紀郡大山村德水
明治廿一年三月二十日生

商店員

明治四十二年より小野權四郎醸造部勤務

中澤彌三兵衛

住所 多紀郡大山村町本籍 同ノ田二七三
明治八年五月十四日生

農業 酒造杜氏 武庫郡御影本嘉納商店

町ノ田區長

中澤房太郎

住所 多紀郡大山村一印谷本籍 同二七八
明治廿三年五月十七日生

農業 勳八等

帝國在郷軍人會大山村分會長、多紀郡聯合分會評議員、無限責任大山村信用組合監事、大山村學務委員、兵庫縣農事改良獎勵員、一印谷區長

中西源十郎

住所 多紀郡今田村四斗谷本籍 同一九
明治卅三年四月三日生

裁判所書記

司法省供託局主任書記

途を聞く、目下灘酒金盃醸造元に杜氏として勤務す



中西達男

住所 城南村真南條中
本籍 同
明治五年十二月八日生

農

多紀郡醸酒業組合幹事 城南村前任副支部長
真南條酒造研究会長 酒造杜氏

經歷

明治三十二年度より杜氏に福岡縣、新潟縣、福島縣、山梨縣、徳島縣、長野縣、主任杜氏巡回教師 酒造模範場講師等歴任感謝狀、賞狀、表彰狀、金盃、木杯等賞品を受く、後進の爲にも

中西榮造

住所 多紀郡真南條中
本籍 同
明治八年六月二十二日生

農 勳八等

城南村真南條耕地整理組合會議員
眞栗信用組合監事 城南村真南條中總代

經歷

明治廿八年多紀郡眞條尋常小學校準訓導
廿九年味間尋常小學校訓導奉職
明治卅五年より昭和三年まで古市小學校訓導
昭和三年叙勳八等賜瑞寶章

中西武五郎

住所 神戸市南仲町一雷地
本籍 多紀郡雲部村泉三〇
明治廿五年六月十日生

中西武商店 賣藥卸商

中西喜久馬

住所 日置村八上新
本籍 同
明治十二年

農 村長 農會長

村長二期 村會議員、篠山商工銀行取締役

經歷

中西藤一郎

住所 日置村八上新
本籍 同
明治十二年一月二十八日生

農 村會議員 區長
八上新耕地整理組合理事 勳七等

中西治郎吉

住所 雲部村泉
本籍 同

農業 經歷

農會惣代

經歷

明治四十年篠山高小學校卒業 大正元年より大正九年まで本籍地に於て商業に従事す其間星製藥株式會社多紀、氷上、有馬三郡元賣捌所經營大正九年より大正十二年まで星製藥株式會社兵庫縣元賣捌所に勤務
大正十三年より現營業所に於て賣藥卸賣問屋經營す

營業所神戸市兵庫南仲町一九

出張所大阪西北區川崎町一〇 廣島市鷹匠町表町九二 京都市上京區黒門通中立賣南

中西藤三郎

住所 日置村西莊三一五
本籍 同
明治二十年七月八日生

農

帝國在郷軍人會日置村分會長 日置村會議員
兵庫縣方面委員 兵庫縣清和會委員 西莊區長
勳八等 豫備少尉

中西與市

住所 多紀郡今田村四斗谷
本籍 同
明治三十年十一月二十七日生

農
今田村農會總代

經歷

三期間今田村會議員

明治二十八年より十八年間大字區長

中西林之助

住所 多紀郡今田村木津
本籍 同
明治三十年五月三十日生

農業 凍豆腐製造業

經歷

明治四十二年より十ヶ年大字區長

明治四十三年今田村會議員十五ヶ年勤續

中森幾太郎

住所 福住村小野新一三八
本籍 同
明治二十二年五月一日生

木炭及葎商

村會議員、所得稅調查員補欠員、家屋稅調查員

經歷

營業所 本店福住村小野新電話福住一五

支店 鳥取縣上石見驛前

出張所 阪神間住吉南驛前電御影二二二九

全 伯備線生山驛前

中森常吉

住所 雲部村本庄
本籍 同

農業

區長 本莊耕地整理組合長

經歷

收入役、村會議員

中森新助

住所 福住村幡路
本籍 同
安政三年十月十七日生

農 區長

統計調查員

中森義雄

住所 篠山町立町
本籍 福住村幡路
明治卅九年一月五日生

會社員

明治生命社員

中森藤吉

住所 福住村幡路一六
本籍 同
明治三年四月廿五日生

農

長澤 要

住所 大阪市東淀川區三津
本籍 多紀郡大山山下
○四四ノ一
明治二十年八月二日生

長澤美雄

住所 神戸市北長狹通四丁
本籍 多紀郡大山村大山下
五一一
明治三十二年八月十日生

會社員

一二五

安田保善商工團
中外商業學校教諭兼教務

經歷

豫備役陸軍航空兵中尉從七位勳六等

明治四十年徵兵として歩兵第七十聯隊入隊

大正九年十二月士官學校本科に入校全十年十二月

卒業任歩兵少尉、歩兵第七十聯隊附、十二年

十二月滋賀縣八日市飛行第三聯隊附命ぜらる

空中偵察並に經理事務、全隊創設委員として事

務に服す十四年中尉に昇進、全年五月航空編制

改正の爲兵科獨立任航空兵中尉二年八月待命豫

備役編入

中外商業學校の教練及体操担任、教務係

東神戸土地建物株式會社取締役
伊藤企業株式會社監査役
雜誌「ゴルフドム」編輯發行

長澤恭三

住所 大阪市北區東野田町三丁目三三
本籍 多紀郡南河内村西谷六六

明治卅四年六月五日生

新聞記者

帝國在郷軍人會櫻宮分會內務理事
大阪市立北第八青年訓練所指導員
大阪市櫻宮青年團理事
大阪中央辨論俱樂部副幹事長

經歷

中學校卒業後京都立命館大學豫科中途退學
壹錢夕刊記者を振出過去六年間新聞記者生活
著述業 政治、新聞事業に興味を持ち、ペンネーム(行宏)

長澤仙太郎

一六六
住所 多紀郡大山下五二一
本籍 同
明治九年二月十四日生

經歷

明治三十七年九月より大正九年九月迄收入役
大正九年より助役 明治三十八年より信用組合理事 學務委員 家屋稅調查委員 大山村下河野土地利用組合長 死亡

長澤秀三郎

住所 多紀郡大山村大山下五四八
本籍 同
明治卅三年二月十八日生

經歷

大正十二年四月大山村書記就職現在に及ぶ

長澤永澤

住所 多紀郡大山村大山下一二四四
本籍 同
明治廿八年六月二十七日生

吳服雜貨賣藥商

長澤健太郎

住所 多紀郡大山村大山下四二八
本籍 同
明治卅五年四月三日生

建築用竹材竹垣袖垣一式
生繭賣買業農業

長澤彌三太郎

住所 多紀郡大山村大山下四三八ノ二
本籍 同
明治二十年七月九日生

農業
酒造杜氏 奈良縣吉野郡上市町
北岡惣太郎酒造場

長澤與次太郎

住所 多紀郡大山村大山下五〇八
本籍 同
明治十二年二月十三日生

農業
大山下區長
信用組合監事 大山村下河野土地利用組合長

經歷

前大山村會議員 全林務委員

長澤嘉助

住所 多紀郡大山村一印谷一九
本籍 同
明治九年十一月二十八日生

農業

元家屋稅調查委員

經歷

前大山村會議員

長澤豊吉

住所 多紀郡大山村大山下五〇九
本籍 同
明治二十三年六月廿二日生

指物職

明治四十年より福知山町にて修業、大正九年篠山驛前丸三會社農機具製作主任兼職工長として勤務、自宅營業
製作課目、和洋家具類、其他指物一式

長澤 貞吉

住所 南河内村西谷
本籍 同

兵庫縣穀物検査所三田検査員 勳八等

經 歴

豫備陸軍歩兵特務曹長

長澤 喜十郎

住所 南河内村西谷
本籍 同

教諭 正八位勳七等

三田中學校教諭(体操)

經 歴

豫備陸軍歩兵少尉

長澤 元吉

住所 多紀郡味間村味間南
本籍 同 五三六ノ一
明治廿二年十二月廿七日生

農業

經 歴

元村會議員、前部落惣代、丹波製茶組合理事
元味間信用組合監事、兵庫縣茶業組合聯合會副
會頭等歴任

一一八

長澤 春之助

住所 多紀郡大山村大山下
本籍 同 四六九
明治十年五月四日生

農業

大山村會議員、學務委員

長澤 醇

住所 多紀郡大山村大山下
本籍 同 四九四ノ二
明治六年十一月十六日生

農業

生花池坊流 謠曲正春流

長澤 文吉

住所 多紀郡大山村大山下
本籍 同 一二〇四ノ一
明治四年十二月十五日生

製糸業 勳七等功七級

長澤 源藏

住所 多紀郡大山村大山下
本籍 同 五四一
明治十八年九月一日生

鋳力、銅工、細工業

内藤 幸太郎

篠山町立町三二

百三十七銀行に勤務

經 歴

鳳鳴義塾卒業

篠山町青年團長 多紀郡青年團理事

趣味 謠曲に好む

内藤 源次郎

住所 日置村曾地奥
本籍 同
明治二十二年六月廿一日生

農 村會議員 農會惣代

經 歴

近衛騎兵として入營

内藤 音吉

住所 日置村曾地奥
本籍 同
明治九年五月一日生

農 村會議員 日置信用組合理事
死亡

上田 英夫

住所 熊本市黒髪町坪井六
本籍 同 五二
兵庫縣氷上郡國領村

第五高等學校教授

高等官三等

略 歴

明治二十七年兵庫縣氷上郡大路村栢野に生る。
縣立柏原中學、岡山第六高等學校等を経て大正
六年東京帝國大學文科大學に入學、大正九年文
學部國文學科卒業。後大學院にあり傍ら國文
學研究室副手つとめしが大正十年三月第五高等

一一九

學校教授に任ぜられ、今日に至る。

趣味。文學一般（歌人として日本歌人協會員

水鏡派選者）スポーツ殊に野球を好み現に五高

野球部長たり。從五位



上田寅之進

住所 古市村大飼二二一
本籍 同

明治十二年五月十六日生

公吏 古市村長

經 歷

明治三十一年より大正九年迄小學校教員奉職

一三〇

大正九年より古市村長就任

現に古市商工會々頭、古市村養蠶組合長

古市村養蠶組合長、辨天耕地組合長

多紀郡自治協會理事、多紀郡教育會理事

兵庫縣消防協會代議員

日本生命保險株式會社代理店

上田小三郎

住所 多紀郡味岡村東古佐
本籍 同

醫師 學務委員

味岡村信用組合長理事

經 歷

柏原中學校卒業 大阪高等醫學校卒業

當地に於て開業

味岡村信用組合理事

上田忠夫

住所 有馬郡三輪町(三田驛前)
本籍 多紀郡古市村大飼一五一

明治三十三年四月九日生

自宅開業 上田醫院主

略 歷

大正七年三月鳳鳴義塾卒業准訓導で九月まで多

紀郡雪部村小學校に教師後金澤に遊學し大正十

三年金澤醫科大學醫學專門部を卒業す 翌年三

月まで愛知縣碧海郡新川町新川醫院にて研究す

十四年四月有馬郡中野村加茂に醫院開業 昭和

四年末三田町に居を移す。外科産婦人科を主と

して開業す。昭和二年二月より三ヶ年中野村青

年團長の職に在りしが四年秋他出の爲辭任す。

有馬郡本庄村醫、中野村醫、加茂小學校醫、青

野小學校醫郡醫師會理事

趣味 カメラ、繪畫、旅行

上田 隆

住所 氷上郡國領村
本籍 同

醫院主 村醫、校醫

略 歷

大正三年熊本醫專卒業、赤十字病院勤務

大正六年開業

園恭 殊に素人畫家として名あり

上田敏男

住所 尼崎市東御園町十七
本籍 多紀郡古市村大飼
明治卅九年四月十四日生

醫師 尼崎市庄下南川産婦人科病院勤務

略 歷

大正十四年三月鳳鳴中學校卒業

大正十五年四月東京醫學專門學校に入學、昭和

五年三月卒業同年四月大阪市南區谷町薄外科勤

務、昭和六年尼崎市庄下南川産婦人科病院に勤

務

一三一

趣味 寫真

上田壽太郎

住所 大阪市北區東野田町
七ノ一七六
本籍 兵庫縣水上郡大路村
植野

大阪市櫻宮衛生組合評議員、櫻宮衛評會幹事、
共益團休後援會常任委員、在郷軍人會、青年訓
練所、婦人會、青年團、小學校諸委員、
東七會、堤親會兩幹事長、關西水上郷友會委員
石炭、コークス商

經 歷

明治四十二年十月、十八才の時上阪、大正元年
石炭コークス商開業、現在に至る。
國勢調査員二回

上田信太郎

住所 水上郡美和村
本籍 同

昭和四年十月村長

農會長、養蠶營業組合長、消防組頭、教育會頭
等兼任

經 歷

大阪府男女兩師範學校教諭十ヶ年。中學校、高
等女學校教諭十二ヶ年。其間高等官六等待遇八
ヶ年 正七位

上田佐造

住所 多紀郡八上村澁谷
本籍 同

明治元年一月二十日生

農業

澁谷部落惣代、檀徒惣代

經 歷

澁谷惣代、檀徒惣代
衛生委員及部落農會役員

上山景一

住所 和歌山縣日高郡御坊
町西町
本籍 兵庫縣水上郡新井村
大新屋

和歌山縣立日高中學校教諭
出身校東洋大學出身

上山重夫

住所 大阪市
本籍 水上郡柏原町

大阪市東區今橋三丁目共同信託株式會社社員

經 歷

早稻田大學政治科卒業
陸軍三等主計

上山周三郎

住所 多紀郡味間村中野一
四二
本籍 同
明治八年十一月二十七日生

農業

味間村信用組合監事、部落惣代

經 歷

味間村信用購買販賣組合監事
部落惣代、村會議員

上山萬治郎

住所 多紀郡味間村中野一
六七ノ一
本籍 同
明治十年二月七日生

農業、村會議員

經 歷

檀徒惣代、部落評議員

上野清七郎

住所 岡野村大野一四ノ
本籍 同
明治十六年五月三日生

農、村會議員、酒造杜氏

經 歷

高等小學校卒業

植村嘉三郎

住所 東京市四谷番茶町卅
一
多紀郡福住村出身

株式會社 晝夜通信社主幹

幼にして東京に出で、苦學、新聞社生活數年、

大正十二年晝夜通信社を買収、獨立經營す。
同十三年株式會社組織を變更し専務取締役たり
非常な活動家酒は一滴も飲まず

植村新之助

住所 篠山町吳服町
多紀郡福住村福住

篠山自動車株式會社常務取締役

植木太良市

住所 篠山町二階町
本籍 氷上郡葛野村

肥料農具販賣業

經 歴

明治三十五年兵庫縣立農學校卒業、直ちに氷上郡役所に奉職
三十八年多可郡役所、四十三年多紀郡役所及多紀郡立實科高等女學校、大正六年朝來郡役所等に奉職

一三四
大正七年十月退職現業を營む

植良伊太郎

篠山町吳服町

酒類販賣商 町會議員 篠山町財源調査委員
町村衛生組合議員

經 歴

永年篠山實業協會幹事 元家屋稅調査委員
元刑事、明治廿七年巡查拜命、卅九年三月まで奉職。名刑事として名聲噴々たり、明治卅五年篠山町西坂熊太郎氏宅へ賊忍び入つたるを追跡して城南村藥師堂附近で捕へたるに今一人の賊來りて頭部其他數ヶ所に重傷を負はせらる、忠實熱心なりし事を知るべし
各方面より感謝慰勞され賞狀賞金を受く

浦名隆一

篠山町西町一

藥種商 富山藥學士

町會議員

經 歴

鳳鳴義塾卒業 富岡藥學專門學校卒業
町會議員二期

内山昌雄

篠山町二階町

産婦人科醫師 内山醫院主

豫備三等軍醫

經 歴

東京濟生學舎醫學專門學校卒業
東京帝國大學選科産婦人科學研鑽
東京順天堂病院内外科、補田病院産婦人科
三等軍醫となりて明治三十七年十月從軍す
有馬郡轉地療養所主任醫師たり、明治四十年よ

り開業

篠山信用組合理事、在郷軍人分會評議等務む
和歌に興味を有し名あり
正八位勳六等

梅田 寛

住所 東京市外中野町桃園
本籍 二四 氷上郡上久下村字北
太田

著述業

經 歴

氷上郡上久下村立小學校卒業後、東京京華中學を経て、早稻田大學文科(ロシヤ文學科)を卒業。以來専ら文筆によつて生活。著述の出版されしもの約二十冊

白井瀧藏

住所 福住村安口六一
本籍 同

明治十六年七月廿八日生

農 村會議員、區長

一三五

統計調査員
家屋税調査員

宇杉春太郎

住所 多紀郡北河内村倉本
本籍 同

村農會長 村會議員 學務委員

魚見久治郎

篠山町西町
本籍 福井縣小濱町

雨傘製造販賣

野々口政太郎

住所 日置村野々垣九
本籍 同
明治十年三月一日生

農 酒造業 銀行員
從七位勳六等

經 歴

鳳鳴義塾卒業 一年志願兵騎兵少尉
早稻田中學校卒業、第三高等學校中途退學
京都帝國大學法科大學專科入學、日露戰役に從
軍騎兵中尉
株式會社辻銀行頭取、日置村長、農會長、在郷
軍人分會長、郡農會評議員、村會議員、中丹銀
行頭取
酒造業を四世營む

野々口富之助

住所 日置村
本籍 同

農 村會議員 區長 勳七等
明治五年五月廿八日生

野村乙太郎

住所 氷上郡黒井町野村七
二四
本籍 同

兵庫縣氷上郡吉見尋常高等小學校校長兼青訓充當
氷上郡吉見村立農業公民學校校長

經 歴

明治四十三年三月柏原中學卒業 明治四十四年
三月大阪府池田師範第二部卒業
大阪府下小學校勤續八年 氷上郡内小學校勤續
十三年 今日に至る
趣味 園芸 琵琶

野村作藏

住所 大阪市東區北久太郎
町三丁目五番地
本籍 同
氷上郡黒井村出身

タオル、ハンカチーフ卸商
莫大なる取引をなす 野村商店主

經 歴

一小店員より身を起し、遂に今日の成功を贏ち

野垣芳藏

住所 北河内村高坂
本籍 同

村會議員
篠山商工銀行員

野垣清三郎

住所 北河内村高坂
本籍 同

村會議員

得た立志傳中の人である
文久三年氷上郡黒井村野村晋右衛門二男に生る
十二歳にして大阪に出で幾多の時代を経て今日
に至る
昭和六年郷里の神社其他へ莫大な寄附をして貢
献するところがあつた

野々口正夫

酒造業 青年團長

住所 多紀郡福住村福住
本籍 同
明治卅七年八月二十一日生

昭和二年三月三十一日鳳中へ
正八位
一三八

野々口實太郎

農
農會惣代

住所 福住村西野々
本籍 同
明治廿一年二月十七日生



國里東良夫

住所 福住村二ノ坪三七四
本籍 同
安政五年一月三日生

神職 社司 二等司業

經 歴

柏原藩士、明治七、八年に豊岡縣第十八大區書記、京都、滋賀等の巡察、十三年より福住村吏十五年熊野新宮神社社掌

國本 勳

住所 藤山町西新町
本籍 大阪市天王寺區大道一丁目一四七

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭
大正十三年三月十三日神戸高等商業學校卒業
同十五年十一月廿二日中等學校、英語科、商業科、簿記科教員免許狀受領

十七年東都遊學

十八年村吏員となる、町村制實施後神官として各所兼務、多紀郡神職取締
大正十四年郷社となる
和歌、俳句等精進

倉垣 永吉

住所 城北村新莊
本籍 同

農 元村長
村農會長 勳八等
經 歴

明治三十九年新莊區長及寺院惣代、氏子惣代等二十年勤職 收入役、助役、村會議員、村長、郡會議員
日露戰役の功により勳八等に金貳百圓を賜ふ、大正四年御大典記念章並に和田山に於て賜饌商工銀行監査役

倉垣 爲藏

住所 東京市下谷區上野櫻木町二八
本籍 多紀郡城北村新莊
明治廿年三月十四日生

安田銀行出納課長

經 歴

明治三十八年鳳鳴義塾卒業、山口高等商業學校卒業、
明治四十三年大阪百三十銀行本店勤務後安田銀行と合併せられ同行伏見支店長、博多支店長、及淺草千束町支店長たり
趣味 園芸

倉愛右衛門

住所 多紀郡後川村上
本籍 同

農具商

經 歴

村會議員 消防小頭 組合幹事
學務委員 部落惣代

一三九

倉 健藏

住所 多紀郡後川村上
本籍 同

農 勳七等

經 歷

海軍下士 帝國在郷軍人會後川村分會副分會長

熊谷 直行

住所 篠山町立町
本籍 宮城縣仙臺市東三番町一五三

篠山町 熊谷醫院主

經 歷

大阪醫科大學卒業

倉 正義

住所 多紀郡後川村上
本籍 同

農業

經 歷

村會議員 農會評議員

熊谷 彙藏

住所 日置村會地中六
本籍 同
文政二年十一月二十四日生

農 苗木商朝日園

村會議員 區長 部落農會長

經 歷

朝日園創立明治三十六年爾來各種苗木販賣をなす

倉 藤吉

住所 多紀郡後川村
本籍 同

農

經 歷

村會議員 後川村收入役 郡會議員 部落惣代

桑名 保吉

住所 篠山町北新町
本籍 福島縣安積郡中野村
字向町

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭

明治四十三年三月三十日福島縣師範學校卒業

大正九年十二月二日中等學校數学科教員免許狀

受領 福島縣立會津中學校 同九月二十五日茨

木縣立下妻中學校 山梨縣立甲府中學校 北海

道函館師範學校 福井縣立小濱中學校の各校を

歴任し昭和二年三月三十一日鳳中へ

正七位高等官六等待遇

桑畑電機製作所經營

大阪教化委員

經 歷

當所は陸海軍省指定工場にて軍需品工場たり、昭和五年前所主死亡により引繼ぎ今日に至る

日下 六三郎

住所 多紀郡後川村後川新
田一四七ノ二
本籍 同

農業 村會議員

經 歷

大正十年鳳鳴中學校卒業

大正十年明正簿記學校銀行課修了

大正十一年御影師範二部中止退學

大正十四年丹南銀行重役(支配人)

昭和四年村會議員

桑名 藤吉

住所 大阪市北區兔我野町

酒小賣商

二十五歳にして酒小賣行商を始め、其の傍ら家屋土地賣買周旋業をなす

桑畑 彌十郎

住所 大阪市港區泉尾中通
二丁目六
本籍 氷上郡美和村戸坂百四十四番地

日下源治郎

住所 多紀郡後川村新田

農 學務委員、信用組合理事

經 略 部 落 惣 代、村 會 議 員

一四二

醬油醸造業 神戸大氣堂店員

經 略

在郷軍人分會長 陸軍後備歩兵中尉

久合田 勉

住所 盛岡市上田小路一九

本籍 多紀郡村雲村草ノ上

盛岡高等農林學校教授

略 歴

東京帝大農學部卒業(大正二年)後陸軍省馬政局十勝種馬牧場に技手任官、日高種馬牧場、馬政本局(技師)宮崎種馬所長を経て大正九年より現職にあり

久下 順康

住所 北河内村宮田

本籍 同

久下繁太郎

住所 氷上郡國領村榎原

本籍 同

村會議員

略 歴

京都府天田郡上夜久小學校、氷上郡多利小學校大路、進修各小學校等多年小學校教育に従事後職を辞して實業界に入り株式會社系屋銀行黒井支店に勤務、大正十五年幸世支店に轉じ昭和二年株式會社葛野銀行に就職、昭和三年退職す

久下武治郎

住所 大阪市東區弘小路町

出生地 多紀郡北河内村宮田

明治十二年四月六日生

自轉車製造業

大阪市東區廣小路青年團長

大阪自轉車商工組合長

大阪府自轉車工業組合監事

大正十三年より自轉車製造業經營

大正十五年七月大阪市産業部主催の南洋見本市に参加 南洋諸島へ、昭和三年十月大阪市囑託としてビルマ印度へ、昭和五年印度、波斯、埃及、シリア、ブルガリア、トルコ、ギリシヤ、ユーゴ、スラビヤ、ハンガリー、オースタリ、チエツコスロバリア、ドイツ、フランス、英國、スイス、オランダ、ロシア各國の商工業を視察旅行をなす

久下 俊治

住所 多紀郡草山村遠方二

本籍 同

明治三十六年十月十八日生

帝國在郷軍人會草山分會長

經 略

草山村立本郷尋常高等小學校高等科卒業
同農業補習科卒業
青年訓練所指導員
青年團副團長

久下 常藏

住所 多紀郡草山村遠方三

本籍 同 九
安政四年十二月五日生

經 歴

草山村會議員三期、學務委員二期
遠方部落惣代二回、多紀郡々會議員



安原 瀧藏

陸軍少將

略 歴

鳳鳴義塾を卒業後暫く小學校教員たりしが、明治二十七年十二月士官候補生として、福知山第二聯隊に入隊、士官學校卒業後任官、三十九聯隊の副官を経て同中隊長として日露戦役に出征、聯隊副官、旅團副官として各地に轉戦頗る勇名を馳せた。奉天大會戦の際重傷を負ふて後

住所 長崎縣北高來郡小野村小野
多紀郡城南村小枕出身



安岡 伸稔

辯護士

送さる。戦後陸軍大學に入學、卒業後は歩兵學校教導大隊長、濱田の二十一聯隊長、第六師團の參謀長等を経て京都第十六師團司令部附少將となつて待命
剛膽にして友誼に厚し。酒好き、羽室庸之助氏の令妹が先夫人。現夫人の郷里雲仙岳の麓に住む

一四四

大正二年關西大學法科卒業
大正七年大阪市於辯護士就業
昭和二年篠山町二階町に開業
七年郷里高知市本町二九九番地東南側へ歸省山崎修伯と改姓名

安井 亭藏

經 歴

農業丹波製茶組合理事
部落惣代、村會議員三期、味間村助役、味間村長、味間奥信用組合理事、辨天銀行取締役歴任

住所 多紀郡味間村味間奥
本籍 同 一八二
嘉永三年十月十五日生

安井 吾市

農業

經 歴

住所 多紀郡味間村味間新
本籍 同 五〇
安政五年八月五日生

元味間村々會議員、前味間村學務委員
前味間新惣代

安井 梅太郎

農業

經 歴

明治十九年多紀郡古市小學校教師、多紀郡茶業組合會議員、部落惣代、村會議員、氏子惣代を經る

住所 多紀郡味間村味間新
本籍 同 二一〇ノ一
明治元年一月一日生

安井 長吉

農業

村會議員

元北野區長

林務委員

住所 多紀郡大山村北野三
本籍 明三
治十一年四月十四日生

一四五

安井喜次郎

住所 多紀郡雲部村倉谷
本籍 同

區長
經歷

一四六

農業

郡農會評議員 郡畜産組合副會長

經歷

郡會議員、村長、農會長、信用組合長歷任

安井幸次郎

住所 多紀郡雲部村倉谷
本籍 同

村會議員、區長
經歷

農業 勳八等

安井藤十郎

住所 雲部村倉谷
本籍 同

農業 勳八等

經歷

村會議員、區長

安井五郎

住所 城北村野間
本籍 同

學務委員
經歷

城北村役場書記

收入役、學務委員

信用組合理事

安井稜威治

住所 雲部村倉谷
本籍 同

農 村會議員

矢持輝治

住所 東京市外世田谷町世田谷一八六〇
本籍 水上郡大路村打鹿場

雜誌マネジメント社長

海軍少佐 從六位勳四等

經歷

大正十一年まで海軍に奉職、官を辭して後勞資協調會産業能率研究所に入所、同十三年以來、能率増進、經營管理に關する雜誌マネジメントを發行して今日に至る

矢野順一郎

住所 大芋村小倉
本籍 同
明治廿四年七月二十日生

神田小學校長
經歷

師範學校卒業後郡内小學校

福住小學校首席訓導歷任

福住村青年團長

矢野締藏

住所 大芋村中
本籍 同

農 村會議員

矢野柳太郎

住所 多紀郡大芋村中
本籍 同

村會議員、區長

信用組合理事

經歷

御影師範學校卒業

多年多紀郡小學校長歷任

山本主一

住所 篠山町北新町
本籍 岡山縣兒島郡藤戸町
大字藤戸一〇一六

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭

經歷

昭和二年三月廿五日大日本武德會武道専門學校

一四七

卒業 昭和二年四月十五日中學校國語、漢文、
体操科の内柔術科の教員免許状受領 昭和二年
十二月一日幹部候補生として歩兵第十聯隊入營
昭和五年三月卅一日鳳中へ



山本友吉

住所 篠山町河原町出身

陸軍少將

略歴

鳳鳴義塾卒業後明治廿六年士官候補生として佐
倉の歩兵第二聯隊に入隊、少尉となつて間もな

一四八

く輻重兵隊に轉科、輻重兵第一大隊附から騎兵
學校に入學馬術修得。永らく輻重兵第一大隊の
副官たり。教育總監部輻重兵監部員、次に岡山
の輻重兵第十七大隊附より姫路の輻重兵大隊長
となり少將に進級して待命となる。
日露戦争には第一師團の中隊長として出征した
性質温厚、交際好きで青年を愛す

山本秀雄

住所 篠山町河原町

篠山町山本齒科醫院主

経歴

鳳鳴中學校卒業
東京齒科醫學専門學校卒業

山本淡人

住所 篠山町乾新町
本籍 城北村野間出身

町會議員 區長

文久三年十二月十八日生

経歴

有馬郡小野村立小柿小學校に滿三十年間訓導と
して校長として奉職す
菊花を愛し和歌を好む
篠山町菊花同好會長たり。昨今兩年御苗菊を宮
内省新宿御苑に献納するの光榮に浴す。
和歌に有名なる東京ちくさ會より昭和五年三月
号(朝櫻)の競点の作歌の選者に推薦せらるるの光
榮に浴す

山本善作

住所 篠山町北新町

本籍 岡山縣英田郡栗廣村
馬形

兵庫縣警部補

篠山警察署詰 兵庫工場警務一切

昭和四年八月巡查部長 濱阪警察署警務

昭和六年五月警部補 篠山警察署詰

山本政太郎

住所 篠山町西町

料理店魚米店主

琵琶の能手

號旭鳳として有名である

山本元次郎

住所 南河内村川北

本籍 同

農 村會議員 村農會副會長

経歴

後備歩兵軍曹

山本惣次郎

住所 多紀郡草山村遠方七

本籍 同 九二
明治廿七年三月十日生

草山村々會議員 農會惣代

農事改良獎勵委員

一四九

經 歷
草山村農會惣代

山内三吾

住所 東京府豊多摩郡杉並町大字阿佐ヶ谷二丁目
本籍 大山村北野新田四二
明治十二年十月廿七日生

陸軍少將
正五位勳四等功四級

經 歷

明治三十年鳳鳴義塾卒業、同年九月陸軍中央幼年學校士官學校卒業、明治三十五年六月工兵少尉に任官、工兵第七大隊附、明治三十七八年戰役に従軍、電信教導大隊附、近衛工兵大隊副官中隊長、築城部本部員、陸地測量部班長、電信第一聯隊大隊長、同材料廠長、築城部鎮海灣支部長、横須賀支部長を経て
工兵第十一大隊長
昭和七年一月豫備役編入

一五〇

山内庄平

篠山町立町一三番屋敷

篠山町助役

多紀郡酒造組合理事 同醬油組合理事

篠山町養鶏組合長

經 歷

明治三十三年大阪東雲學校卒業、同卅八年裁判所書記登用試験に及第、同四十年任多紀郡書記
大正十三年津名郡首席書記同十二月退職

山内順一郎

住所 氷上郡久下村
本籍 同

氷上久下製粉會社長
氷上久下檜皮會社長

山内喜八

住所 氷上郡大路村下三井庄
明治八年九月二十九日生

農 勳八等 元村長
下三井社耕地整理組合長

經 歷

村會議員一回、學務委員一回、區長三回、役場書記、助役二期
日露戰役に従軍し、輜重兵伍長
大正十五年より村長及下三井社耕地整理組合長
歴任

山内芳松

住所 多紀郡畑村和田二四
本籍 同
明治廿三年一月二十九日生

農業
村會議員 酒造杜氏

經 歷

高等小學校卒業農業に従事、酒造に従事す、部落農會長、在郷軍人會名譽會員、青年團顧問
一五一



山内利太郎

住所 多紀郡雲部村春日江
本籍 同
明治十年六月八日生

宗教家 神道教師 妙靈教會長

經 歷

幼にして父を失ひ母の手によりて養育せられ、幼少時代は身体虚弱なり後宗教的に修業なすの決心をなし、大正八年六月十三日より同九年一月廿七日まで一心不亂に思而思の凝諦に入つた其以後四年三ヶ月を経て大正十二年九月「無窮の生命」と題する二百餘頁の冊子を編纂す

問、部落農會評議員、村會議員
趣味 果樹栽培をなす



山内壽一郎

住所 多紀郡畑村今谷
本籍 同
明治六年五月十二日生

農業
村會議員 畑村助役 學務委員
畑村農會副會長 畑村信用組合長
經 歷
素封家酒造杜氏として多年出稼
部落惣代、農會長、畑村農會役員、同副會長、

一五二
氏子、檀徒惣代、村會議員三期、大正八年畑村
助役、畑村信用組合理事、昭和四年同組合長

山内仙太郎

住所 水上市郡大路村柏野
本籍 同
明治廿三年十二月廿五日生

農 農林技手
經 歷
區長及村會議員、農林技手

山崎嘉吉

住所 多紀郡草山村川阪五
本籍 同
慶應二年七月二十八日生

農會惣代をなす義に天皇御成婚記念日に草山村
長より村治功勞者として感謝狀及火鉢を受く。
明治三十七八年戰役當時の村長として同戰役に
功多く勳八等を授く
經 歷
草山村川阪部落惣代、農會惣代、學務委員

同村會議員四期、收入役、助役
村長、信用組合監事等

山崎徳三郎

住所 多紀郡草山村川阪一
本籍 同
明治二十二年七月十六日生

村會議員、農會評議員、同惣代、川阪部落惣代
草山購買販賣組合理事
經 歷
草山村書記、村會議員二期、川阪部落惣代、
農會評議員、同惣代

山崎英吉

住所 多紀郡草山村川阪六
本籍 同
明治五年十一月十一日生

草山村學務委員、農會評議員、農會惣代
經 歷
草山村收入役、村會議員三期、學務委員、川阪
部落惣代二回、農會惣代二回

山崎長左衛門

住所 多紀郡草山村川
本籍 同
明治十五年六月三日生

村會議員
經 歷
草山村農會評議員、川阪部落惣代

山田定助

住所 東京市牛込區市ヶ谷
仲町四八
本籍 多紀郡村雲村泉

嘉納合名會社東京支店長
東京中央酒類問屋聯盟會理事
京橋區在郷軍人會、其他町自治に盡力す
略 歷
明治三十四年嘉納合名會社へ入社
同三十七年大阪支店詰
同三十九年入隊(軍隊)四十一年除隊
大正九年五月前記會社東京支店長
(現在に到る)

趣味 謠曲

山田廣親

住所 福住村福住三九九
本籍 同

明治卅六年七月六日生

神靈界研究家、催眠術歸神法に獨特の技能あり
在郷軍人分會長 歩兵豫備少尉

經 歷

京都府立第三中學校卒業

私立明治大學卒業

山田善吉

一五四
住所 福住村二ノ坪
本籍 同

明治二年六月二十三日生

農 區長 勳八等

山田莊吉

住所 雲部村本庄
本籍 同

農 業 信用組合理事

經 歷

村會議員

山田市郎兵衛

住所 福住村福住
本籍 同

明治十八年三月十四日生

藥種商

經 歷

私立大阪道修藥學校出身

山田清太郎

住所 南河内村黒田
本籍 同

清酒醸造業 村長

經 歷

鳳鳴義塾卒業

昭和二年五月より同六年五月まで助役

山田隆治

住所 多紀郡南河内村黒田
本籍 同

材會議員、學務委員

區長、消防組頭

經 歷

大正十年四月以來村會議員

農 業

帝國在郷軍人後川村分會副分會長

經 歷

豫備歩兵曹長 役場書記 收入役

山田五市郎

住所 雲部村泉
本籍 同

農 業 村會議員

山田熊次郎

住所 雲部村本庄
本籍 同

村收入役 勳八等

山川頼三郎

住所 福住村福住
本籍 同

明治六年七月七日生

村長 縣會議員 郡農會長

經 歷

多年福住郵便局長たり又郡會議員を始め地方自

山田宇三松

住所 多紀郡後川村新田
本籍 同



治産業及教育衛生等の各方面の要職に歴任し貢獻すること多大、昭和二年縣會議員に當選、更に六年再選さる、多紀郡に於ける政友會の重鎮たり

吳服雜貨商
一五六

山脇信太郎

住所 多紀郡今田村今田新
本籍 田一
明治八年十月十六日生
農業 今田村會議員 勳八等功七級

山口貞二

住所 水上郡春日部村多利
本籍 同
明治廿三年十二月四日生

山鳥重吉

住所 福住村本明谷
本籍 同
明治十年八月十一日生
農 區長 信用組合理事

山口良太郎

住所 日置村井上
本籍 同
明治廿六年七月八日生

山根喜重郎

住所 多紀郡草山村本郷一
本籍 五ノ一
明治二十七年九月二日生

草山村會議員 兵庫縣穀検査員 草山薪炭合名
會社長 同消防組副組頭
兵庫縣米穀輸出検査員兼務囑託
經 歷
草山村書記 信用組合事務員



前田卯之助

住所 神戸市須磨一ノ谷東
丘字西平
篠山町東新町出身
元神戸兼松商店取締役總支配人
略 歷

多紀郡出身實業界の大先輩である。少年時代多くの學友達が官吏及軍人を志して其方面に進みつゝあるの際前田氏は一人率先して實業界に入り遂に今日の成功を贏ち得た先覺者である。
明治十一年二月十七日篠山町東新町にて父猶衛氏(舊篠山藩士)の二男に生る、明治二十四年三月多紀高等小學校卒業、同年四月私立鳳鳴義塾第二年に編入試験を受けて入學。二十七年第四學年を修了、成績頗る優秀だつたが家庭の都合で一時學校を退き家業たる醬油醸造業に従事す休學一年有半にして明治二十八年の秋志を抱いて上京し二十九年六月東京高等商業學校(現今の東京商科大學)に入學。明治三十三年夏二十三才で卒業、直に神戸兼松商店に入り爾來二十五年間同商店にあつて活躍し遂に同商店の取締役總支配人となつて同店を東洋の大貿易商店たらしめると共に我國の外國貿易に貢獻するところ大なるものがあつた。入店後僅かに四年半にして副支配人の地位に進んだのを見てもその才

能を知るに足る。つとに濠洲貿易の是なるを察し同店をしてこれに手をつけしめたのは慧眼である。我國の羊毛需要の激増を豫想したのである。明治四十年には濠洲支店長として出張二年有牛勤務し兼松の羊毛輸入の取扱高をして日本總取扱高の六割を占めしめた。其後又南阿貿易の途を開拓して大いに功績をあげ遂に兼松商店をして資本金五千萬圓の大會社たらしめた。在店二十五年第三回目の取締役の任期滿了改選の結果當選したが後進に道を開く爲固辞して斷然勇退、須磨の居宅に一ノ谷塾を開き現在の吉田松陰を以て任じ育英事業に後半生を捧げつゝある。又前記私塾の外、郷里の出身校たる鳳鳴義塾及篠山小學校に數萬金を寄附し、右兩校の訓育事業を助けること多大であることは人の知るところである。

山下桑右衛門

住所 大芋村藤坂
本籍 同

一五八

前田 治

住所 名古屋市東區東芳野町一ノ八〇
本籍 多紀郡福住村
野砲第三聯隊長
明治二十年四月廿七日生

略 歴

明治三十八年鳳鳴義塾卒業後陸軍士官學校陸軍大學校等を経、姫路、仙台、龍山の各野砲隊に夫々小隊長、中隊長、大隊長して勤務し其他は多く野戰砲兵學校教官又は陸軍省副官等の職にありたり

前田嘉一郎

住所 多紀郡雲部村春日江
本籍 同
教員 城南小學校長

御影師範學校卒業、卒業後多年多紀郡内に小學校訓導たり。畑小學校長、城南小學校長を経て今日に到る

前田 吉治

篠山町立町

乾物商
鳳鳴義塾卒業

前田延治郎

住所 岡野村風深二二
本籍 同
明治三年九月廿五日生

農 村會議員

經 歴

元區長

前中 精逸

住所 多紀郡今田村四斗谷
本籍 同
明治廿七年一月十日生

酒造業

今田郵便取扱所長 今田村信用組合長
村會議員 今田村辰巳耕地整理組合長

經 歴

鳳鳴義塾卒業 柏原稅務署管内土地賃貸價格調査委員
趣味 郷土研究

前川 誠次

住所 多紀郡味間村東吹一
本籍 同
明治三十一年二月十日生

洋服商 味間村青年團顧問

經 歴

篠山高等小學校卒業
大阪市私立洋服學校卒業、堺市勝間洋服店主任
吹青年修養會副會長、味間村青年團副團長

一五九

青年團長當選、多紀郡青年團理事囑託
味間村青年團顧問

一六〇

文字美術(洋書書道上手)スポーツに理解
を有す

前川嘉一

住所 多紀郡今田村休場二
本籍 同 九六
明治二十九年一月十三日生

農

今田村會議員 信用購買販賣組合理事
今田村學務委員

經 歷

有馬郡立三田農林學校卒業

前川悅太郎

住所 岡野村大野一四二
本籍 同
明治卅一年三月二十九日生

農林技手

經 歷

縣立農事試驗場甲種練習生卒業、
小學校農業科正教員檢定試驗合格

前川正造

住所 多紀郡今田村休場
本籍 同
明治三十四年六月二十日生

農業

經 歷

今田村青年團長 多紀郡青年團理事
趣味 讀書を好み、殊に農村問題に關するもの

前川熊藏

住所 多紀郡味間村大澤八
本籍 同 六ノ一
明治七年四月十二日生

酒造業

經 歷

前村會議員
銘酒鳩之泉醸造元

松本豊藏

住所 東京市深川區木場四
丁目二十八番地
本籍 多紀郡日置村井上
明治十七年二月一日生

南洋材輸入販賣

略 歷

明治四十年東京帝國大學農科大學林學實科卒業
農務省山林局に奉職爾來内地林政の職務に従事
すること十年

大正七年南洋材の利用開發を志し、渡南爾後今
日迄南洋材の輸入販賣に従事す

了 東京神田三崎町日本大學法文學部、政治學
科を卒業(大正十五年三月)後直ちに東京丸ノ
内報知新聞社入社

松川彌太郎

篠山町東新町
本籍 高松市西濱町四一
番ノ七九

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭心得

劍道教授

經 歷

大正五年六月十日香川縣巡查拜命
同七年八月二十日劍道三段允許、香川縣師範學
校武道教授囑託、同高松中學校武道教授囑託

同十三年五月劍道四段允許
同十三年十月十六日兵庫縣巡查拜命
同十一年十一月三十日兵庫縣立鳳鳴中學校武道教授
囑託

昭和五年三月三十一日同教諭心得

松山幸逸

住所 東京市外池袋町一六
二六
本籍 兵庫縣氷上郡國領村

大正十五年報知新聞社に入社、通信部を経て政
治部記者として今日に至る

經 歷

鳳鳴義塾を卒業

東京小石川區茗荷谷の拓殖大學支那語科一年修

一六一

松山精一郎

住所 水上郡大路村鹿場
本籍 同

明治十年十一月十五日生

農 從七位勳六等
村會議員、學務委員

經 歷

鳳鳴義塾卒業後陸軍士官學校卒業、陸軍歩兵中尉日露戰役に從軍し從七位勳六等なり
村議二期、學務委員一期、區長二期
助役一期、村會議員、學務委員

松本 稔

住所 南河内村川北新田
本籍 同

一六二

農
村會議員、學務委員、青年團長

經 歷

御影師範學校卒業
郡内小學校訓導及校長歷任

松本勝治

篠山町二階町八ノ二

兵庫縣立鳳鳴中學校教諭心得

經 歷

大正二年十二月一日歩兵第七十聯隊へ入營
昭和五年五月二十五日任歩兵少尉同日待命
同五年七月三十一日鳳中へ
正八位勳七等

松木吟藏

住所 古市村住山二五一
本籍 同

明治二十年五月十八日生

農
住山部落惣代、部落農會長

經 歷

古市村消防小頭
部落惣代
部落農會長

松木又十郎

住所 古市村住山二〇
本籍 同

明治二十四年六月十一日生

農

消防小頭 住山製茶業組合長

古市養蠶組合理事評議員

經 歷

古市村青年會理事、蠶業學校出身、養蠶教師
古市養蠶組合評議員理事、古市村消防小頭

松浦徳三郎

住所 城北村郡家
本籍 同

本籍 同

農業

村學務委員 村農會惣代

經 歷

城北村會議員二期 農會評議員
農會惣代 區長
篤農家にて縣及郡農會より數度表彰狀を受く

松下岸太郎

住所 北河内村小坂

本籍 同

村會議員

松山豊次郎

水上郡國領村東中

現國領村々長

村會議員三期間つとむ 勳八等

松中湛守

住所 多紀郡大山村大山上
本籍 大阪府泉南郡西葛城

村木積二

明治二十九年十月二十三日生

僧侶 本來寺住職

大正十一年二月二十五日淨土宗總本山知恩院門主山下現有大僧正より本來寺住職拜命
妙籍大阪市天王寺區谷町八丁目願生寺住職
林堪山
本籍地へ復歸

松尾文一郎

住所 多紀郡大山村長安寺
本籍 同
明治三十年十月二十日生

農業

大山村穀物生産検査員

松尾元三郎

住所 多紀郡大山村長安寺
本籍 同
明治七年三月十四日生

農業

元長安寺區長

馬嶋陽一

住所 篠山町北新町

馬嶋醫院主

郡醫師會理事 城北村小學校々醫

城北村々醫

明治三十五年千葉醫學專門學校卒業

自三十六年至三十九年東京帝國大學醫學部三浦

一六四
内科教室介補勤務、三十九年より現地開業

榎本ハル工

住所 篠山町北新町二八
本籍 神戸市上橋通四丁目
六

兵庫縣立篠山高等女學校教諭

昭和五年三月二十四日奈良女子高等師範學校文科卒業

五年四月十五日篠山高女へ

俣野岸太郎

住所 大阪市北區天神橋筋
四丁目二一

清涼飲料水製造販賣業

經歷

三十三歳の時上阪大阪市北野下三番にて酒小賣商を営み清涼飲料水製造業をなし三年後同區芝田町へ轉居し、現今に及ぶ

眞繼重治

住所 多紀郡大芋村宮代
本籍 同

村收入役

青年團長



藤本熊太郎

住所 篠山町河原町七八

米藤商店主、篠山土地建物株式會社社長

篠山町會議員、家屋稅調查委員

藤本寛治

住所 多紀郡北河内村
本籍 同

小學校長

經歷

御影師範學校卒業

多紀郡内小學校訓導

後川村立尋常高等小學校長在職中



藤本善吉

篠山町二階町七〇

藥劑師 布袋堂藥局主

(度量衡器、計量器販賣業)

篠山藥業會々頭 多紀郡化粧品同業組合長

兵庫縣藥劑師會代議員 篠山町會議員

經 歷

京都藥學專門學校卒業、明治四十五年四月文部省檢定試驗に及第、名古屋東陽病院に奉職、大正二年現住地に於て開業す

趣味 園碁

一六六

藤本利三郎

住所 北河内村小坂
本籍 同

銀行員 生花、茶道の大家

經 歷

村會議員、多紀郡に於ける生花、茶の大家

藤本敏夫

住所 多紀郡今田村休場七
本籍 同
明治二十年九月一日生

農

經 歷

村會議員、學務委員、村收入役、名譽助役
銀行、會社重役、保險會社常任評議員
今田村農會副會長

藤本鱻之助

住所 多紀郡今田村本庄
本籍 同
明治十六年十月十二日生

商業、村會議員 勳八等

經 歷

明治三十七、八年戰役に從軍し勳八等に叙せらる、大正十年以來村會議員三期勤続中
篠園自動車株式會社取締役、和洋酒販賣店舖を
峯山町及福知山町に設く
趣味として植木

藤木達吉

住所 後川村後川新田
本籍 同

農業、村會議員

經 歷

部落惣代 日露戰爭功勞者

藤田鉄二郎

篠山町小川町二〇

吳服商、園碁の大家

經 歷

振徳高等小學校卒業
大正十四年町會議員
大正十四年國勢調査員
趣味 園碁、謡曲
殊に園碁は初段格で多紀郡内斯界の權威たり

藤本貞治

住所 多紀郡今田村本庄
本籍 同
明治卅五年四月十六日生

農

元今田村青年團長